

事務事業及び予算の執行実績（令和6年度分）

「一部、令和7年度分を含む」

静岡県立吉原工業高等学校

目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	23
学校施設の概要	24
在籍生徒調	26
入学志願者及び入学者数調	28
卒業生の動向調	29
生徒の状況	31
授業料収納状況調	32
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	36
預金調	37
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	38
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	38
委託料に関する調	39
負担金支出調	42
建築工事調	44
公有財産調	46
借地借家等調	47
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	48
行政財産貸付・使用許可調	50
主要備品調	52
職員調	53
職員の年齢調	55
健康管理	56

事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

本校は昭和13年、東京人絹株式会社が乙種工業学校「東海工業学舎」を設立、応用化学科を設置開校に始まり、昭和14年田子浦工業学校と校名改称、昭和18年大昭和製紙株式会社の経営となる。昭和23年静岡県田子浦高等学校となり普通科・商業科を併置し、昭和31年度末に静岡県立吉原工業高等学校の開校（昭和32年4月1日）を待って廃校する。

- 昭和31年1月26日 静岡県産業教育審議会の建議に基づき、本県の東部と西部に工業高校各1校の増設案が認められる。
- 昭和32年4月1日 静岡県立吉原工業高等学校開校。機械科・工業化学科設置、1学年生徒定員各80人（2学級） 旧静岡県田子浦高等学校（旧吉原市今井618-1）を仮校舎に授業実施
- 11月21日 富士市（旧吉原市）比奈2300番地において第1期工事起工（管理教室棟の西側部分・機械実習棟）
- 昭和33年9月2日 管理教室棟（西側部分）竣工、本部及び3年生のみ新校舎へ移転
- 昭和34年2月19日 管理教室棟（東側部分）竣工、1・2年生新校舎へ移転
- 昭和35年4月1日 電気科設置、1学年生徒定員80人（2学級）
- 昭和37年7月20日 電気科実験実習室竣工
- 昭和38年4月1日 機械科・電気科各1学級増、1学年生徒定員各120人（3学級）
- 7月15日 体育館兼講堂（斎藤記念館 - 現第2体育館・鉄筋コンクリート一部2階建1,212.47㎡）竣工
- 昭和40年4月13日 機械科実習棟（鉄筋コンクリート2階建379.68㎡）竣工
- 12月11日 図書館（斎藤記念図書館・鉄筋コンクリート2階建736.7㎡）竣工
- 昭和41年2月28日 工業化学科実習棟（鉄筋コンクリート2階建297.45㎡）竣工
- 昭和42年10月30日 電気工事実習室竣工
- 昭和43年3月25日 機械科実習棟増築（鉄筋コンクリート2階部分118.27㎡）
- 昭和44年2月14日 生徒ホール・部室竣工
- 昭和45年2月12日 格技場（鉄筋コンクリート平屋建607.79㎡）竣工
- 3月9日 電気科実習室竣工
- 昭和46年2月28日 鋳造実習室（鉄骨平屋建151.5㎡）竣工
- 4月1日 電子科設置、1学年生徒定員40人（1学級）（電気科3学級の1学級を電子科へ変更）
- 昭和47年2月10日 電子科実習室竣工
- 昭和48年3月15日 機械科実習室竣工
- 昭和55年1月8日 大昭和製紙（株）より土地9,372.08㎡買収
- 3月29日 国有地5,943.47㎡買収
- 9月10日 プール(25m×8コース)・付属棟(コンクリートブロック平屋建79.18㎡)・(ホッパ室6.5㎡)竣工

昭和55年10月20日 国有地138.35㎡買収
 12月15日 鑿井（深さ150m）工事竣工

昭和56年3月25日 工業化学科棟（鉄筋コンクリート3階建1,593.08㎡）竣工
 昭和56年3月26日 女子更衣室・印刷室・女子職員更衣室新築

昭和57年4月1日 工業化学科1学級減（昭和57年度入学者のみ）1学年生徒定員40人（1学級）

昭和60年2月20日 第1体育館（鉄筋コンクリート2階建1,521.59㎡）竣工

昭和62年4月1日 電子機械科設置（機械科の1学級を電子機械科に変更）

昭和63年2月29日 新技術実習棟（鉄骨2階建1,397.33㎡）・工業化学科プラント実習棟（鉄骨平屋建66.63㎡）竣工

平成3年8月1～6日 平成3年度全国高等学校総合体育大会バドミントン会場となる。

平成4年4月1日 工業化学科1学級減、1学年生徒定員40人（1学級）

平成5年4月1日 工業化学科をシステム化学科に学科改編、1学年生徒定員40人（1学級）

平成6年12月15日 管理教室棟・電気科実習棟・電子科実習棟・機械科実習棟他解体撤去

平成7年4月1日 数理工学科設置、電気科1学級減、1学年生徒定員 各40人（1学級）

平成8年3月15日 新校舎（鉄筋コンクリート5階建 11,273.64㎡）・自転車置場（鉄骨2階建735㎡）竣工
 4月1日 機械科1学級減、1学年生徒定員40人（1学級）

平成9年3月6日 土地643.45㎡を富士市に譲渡

平成10年4月1日 全学年定員240人、全校定員720人

平成12年12月25日 土地14.87㎡を富士市に売払い

平成15年9月19日 図書館・機械科実習棟耐震補強工事完了

平成17年3月15日 第2体育館耐震補強工事完了

平成17年3月24日 上水道切替工事完了

平成24年1月31日 工業化学科実習棟、機械科鑄造実習室、プール附属棟耐震補強工事完了

平成25年12月3日 自転車置場竣工

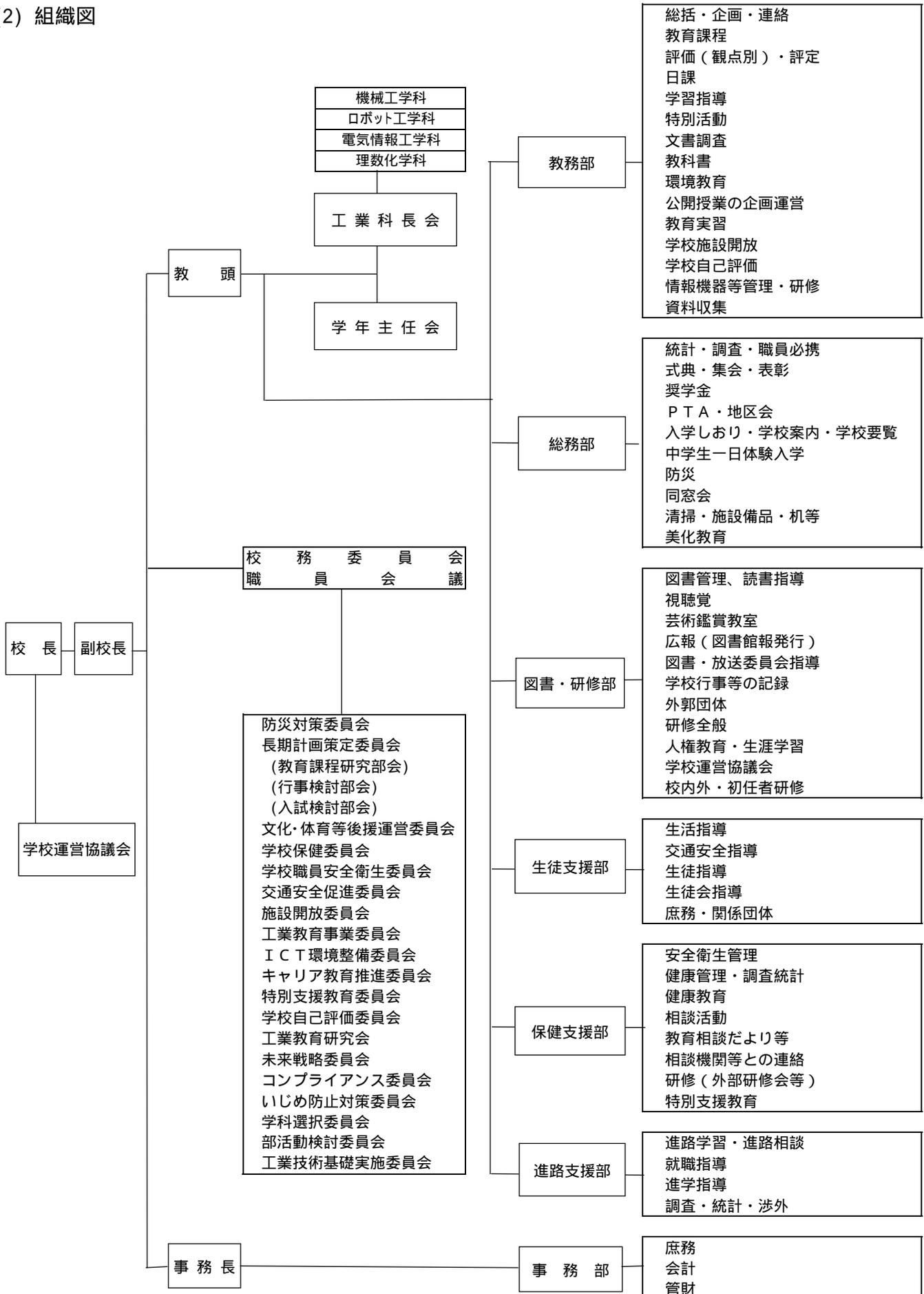
平成28年4月1日 全科一括募集、電気科と電子科の募集を停止し、電気電子科を設置（1学級減）定員200人、全校定員680人

平成30年4月1日 全学年定員200人、全校定員600人

令和5年4月1日 システム化学科、数理工学科の募集を停止し、理数化学科を設置（1学級減）、機械科を機械工学科へ、電子機械科をロボット工学科へ、電気電子科を電気情報工学科に科名変更、定員160人、全校定員560人

令和7年4月1日 全学年定員160人、全校定員480人

(2) 組織図



2 目指す学校像

(1) スクールミッション

製紙産業・輸送機器関連産業・化学産業等、多様な産業が集積する工業都市の中にある、地元根付いた工業高校として、技術革新を見据えた最先端の工業教育と、ものづくり教育を通して、Society5.0を迎える世界に対応した、確かな知識と技術を身に付け、地域の発展に寄与できる人材の育成を目指す。

(2) スクールポリシー

グラデュエーションポリシー	カリキュラムポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>～本校では卒業までにこのような力を身に付けます～</p> <p>われらの信条「努力 - 求めて学び、耐えて鍛えよ - 」のもと、「一生モノの自分づくり」を掲げ、ものづくり教育に加え、キャリア教育や道徳的教育を充実させることで社会人基礎力を醸成し、Society5.0 に代表される変化の激しい社会に対応できる人材を育成する。</p> <p><育成を目指す資質・能力></p> <p>～ 吉工G P 7の達成 ～</p> <p>(1)協働力、(2)受信力・発信力 (3)行動力、(4)自己管理能力 (5)技術力、(6)職業人倫理観 (7)進路学力</p> <p>詳細は「吉工グランドデザイン」等の別紙参照</p>	<p>～本校ではこのような学びを行います～</p> <p>(1)キャリア教育や道徳的教育を充実させ、主体的な学びおよび対話的な学びへ向けた力を高める。 (2)ICTの有効活用や対話的指導を充実させ、個別最適な学びを実現し個々の学びを深める。 (3)少人数教育や実習を通して、専門的な技術・技能・知識の定着と、これらを活用したものづくり実践から課題解決能力を高める。 (4)学校行事や部活動等を通じた人格形成や、実習等における協働意識を高める。 (5)多様な進路選択に向けて、業務に活用できる資格取得の機会を提供する。</p>	<p>～本校ではこのような生徒を求めています～</p> <p>(1)ものづくりに興味があり、工業各分野の専門的な教育に積極的に取り組める生徒。 (2)何事にも努力を惜しまない向上心があり、様々なことに挑戦し続ける意思がある生徒。 (3)自分のことだけでなく、他者を助け、協調することができる生徒。 (4)ルールを守り社会人として必要なマナーを身に付けようと努める生徒。 (5)吉工での教育を通して「ものづくりマインド」を身に付け、「キャリアアンカー」を芽生えさせることで、多様な職業に対応可能な社会人基礎力を育成する意志がある生徒。</p>

ものづくりマインド：SMS教育の実践により身に付ける「ものづくりマインド」は、工業以外の様々な職業でも活かせる。吉工定義

- ・センス(S)：多感で柔軟性のある高校時代に工業教育で体験的に学んだことは体に染みつく。染みついたことは、実際にそれが求められる場面になると、直感で理解し行動できるというセンスとなる。このセンスは工業分野以外の多様な職業でも活かせる。
- ・マナー(M)：5S(「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」)の徹底、技術者倫理(法令や企画書を遵守したものづくり)、道具や材料の特性に配慮する気配り等、技術・技能者として身に付けたマナーは、社会全般に通用するマナーでもある。
- ・スピリット(S)：ものづくりや研究を通してチャレンジ精神や努力する心を身に付ける。そのスピリットは人生の様々な場面で活かせる。

キャリアアンカー：その人の職業人生における根っこのような核となるもの。吉工定義

- ・困難な事態に直面したときに、「自分にはこれがあるから大丈夫」と思えるものを「キャリアアンカー」として芽生えさせる。

(3) スクールポリシー具現化の柱

ア 安心安全な環境づくりへ向け生徒の主体的な「生活安全」「交通安全」「災害安全(防災)」への取組を充実させ、生徒の心身の健康維持を支援することで、生涯に渡る安全・健康意識の形成を図る。

イ 価値観の多様化等の社会変化へ対応しながら、自立や社会参画へ向け、生徒一人ひとりの教育的ニーズを早期に把握し、これに対応する適切な指導および必要な支援を行うことで、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服させる。

ウ キャリア教育や道徳的教育を充実させ、主体的な学びおよび対話的な学びへ向けた力を高める。

エ ICTの有効活用や対話的指導を充実させ、個別最適な学びを実現し個々の学びを深める。

オ 少人数教育や実習を通して、専門的な技術・技能・知識および安全意識の定着と、これらを活用したものづくり実践から課題解決能力を高め、業務に活用できる資格取得の機会を提供する。

カ 部活動やホームルーム活動・生徒会活動・学校行事といった特別活動を通じた人格形成を図る。

キ 地域から期待・信頼される工業高校として、更なる教育改善を図りながら情報公開を充実させる。

ク 円滑かつ適正な事務執行に取り組み、信頼される学校事務を推進する。

ケ 校務の整理・削減等を図り、教職員自らが安心・安全に職務を遂行できるよう業務改善に努める。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	安全教育の推進と危機管理能力の向上	「登下校時、交通法規を遵守している」と答える生徒100%達成。 イエロー切符受領者各学年10人未満。	99%の生徒が交通法規を遵守していると回答した。 イエロー切符受領者は、11月末の段階で延べ40人であった。	B	イエロー切符受領者は富士地区で突出して少なかった。事故を減らすために更なる意識改革が必要である。
		TSマークに関する指導を徹底し、整備不良事故0件。	整備不良が原因となる事故は発生しなかった。	A	入学式後のオリエンテーションで保護者にTSマークの説明をしていることで、意識向上につながっている。
		地域防災訓練への参加率90%以上。訓練不参加者へ学習機会の提供。 「地震等大規模災害発生時の連絡方法や行動について親と話し合っている」と答える生徒80%以上。 外部機関と連携した新規防災教育の実施。	地域防災訓練への参加率は351人中195人で、参加率56.6%だった。 「連絡方法や行動について親と話し合っている」と答えた生徒は57.1%だった。 学校で行う防災訓練に、消防署の職員を招き、消火訓練を行った。	B	参加率は昨年75.6%から今年56.6%と減少している。 不参加の生徒には「富士市の防災自主防災活動編」の動画を視聴させ、レポートを作成することで防災意識を高めることができた。 「災害発生時、親と話し合っている」と答えた生徒が、昨年の77.8%から57.1%に減少した。
	予防的危機管理の実施	工場安全パトロールに対応し、実習室の整理整頓を行うとともに、事故0達成。	・各科で実習前に安全教育を実施し、整理整頓を徹底したため、実習中の事故0を達成した。	A	5Sも意識させながら、次年度も事故0を達成させる指導を実施する。
		面接週間の定期的な実施：各学期1回。 生活アンケートの定期的な実施：各学期1回。	年間3回の面接週間を実施し、担任は生徒全員と面接できた。 生活アンケートを学期に1回実施し、早期指導につながった。	A	面接週間を短縮日課に設定した結果、生徒理解に大変有効だった。継続して実施していきたい。
	健康指導の推進	朝食欠食者へのセミナーの充実。 朝食摂取率95%以上。 歯磨き習慣に関する実態把握と率向上。 新入生オリエンテーションでの保護者への呼びかけや、健康管理を題材とした全校集会を実施することで、健康診断結果による再検査受診率を向上させる。	朝食摂取率は89.4%(R5：89.6%)で目標をやや下回った。 1日に2回以上歯磨きする生徒は86.7%(R5：78.6%)で向上した。 健康診断の再検査報告率は64.0%(R5：47.3%)で向上した。	A	保護者と協力しつつ、文化祭等で健康管理の意識付けを図っている。 朝食については「食べようと思った」と答えた生徒が94.8%(R5：93.1%)になり、向上している。 集会指導なども併せて、継続的に取り組んでいく。

		「1年間で体力が向上した」と答える生徒 90%以上。	体力が向上したと答えた生徒は 74.8%で、目標には達しなかった。	B	新体力テストにおけ「全ての種目で6点以上」は男子 36.7% (R5: 52.5%)、女子 38.1% (R5: 64.0%)と昨年を大幅に下回っている。
イ	自立や社会参画へ向け、生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握と適切な指導および必要な支援の実践	「チーム担任」による学級経営力の強化 各クラス3名の正副担任による取組。 適切なタイミングでの保護者連携方法の運用と確立。 ケース会議の随時開催。 必要に応じた個別の指導計画の作成と活用。 教職員間の情報共有強化へ向け情報交換会の週1回定期開催と校内研修の開催1回以上。 命を守る教育への具体的な取組の検討・実施。 教育相談調査票(入学時提出)に関する情報共有体制を整え指導に活かす。	副担任の役割を明確にして、「チーム担任」を軌道に乗せた。 毎週火曜日にスクールカウンセラーに来校していただき、専門的な視点から生徒の支援に取り組んだ。 ケース会議にも何度か出席していただき、教職員に対する助言をいただくことができた。 毎週水曜日の時間割の中に教育相談に関する情報共有会議を設定し、必要に応じて教育支援計画・教育指導計画を作成した。 薬学講座(全学年)や思春期講座(1年生)において、薬物や妊娠に関する講話を実施し、生命の大切さを再認識する機会を設けた。 教育相談調査票に記載された情報については、保健調査票の情報と併せて一覧表を作成し、校内で共有した。	B	スクールカウンセラーの助言は、危機対応の場面においても大変有効であった。 情報共有会議は有効に機能しているが、時間割のなかに、週2時間に設定していることから、全学年で実施する場合は、その内容や進め方を工夫することが必要である。 薬学講座では、7割以上の生徒が「分かりやすかった」「新しく学んだことがあった」と回答したが、暑い時期に実施する場合には、熱中症防止のための配慮が必要である。 保健に関する生徒の情報については、遠足や修学旅行等でも必要とされることから、校外においても共有できるようにしたい。
		児童相談所やNPO法人、および警察・市役所等の外部機関との連携を更に強化する。	富士特別支援学校のセンター的機能、富士市若者相談窓口ココカラ、児童相談所、富士市こども家庭センターなど、必要に応じて外部機関の助力を求め、活用することができた。また、富士市若者相談窓口ココカラとの連携により、新たに居場所カフェやコミュニケーションスキルアップ講座を実施することができた。	A	外部機関との積極的な連携を継続し、教育相談的な視点からキャリア教育の充実を図っていく。特に、就職時の移行支援の充実が必要である。

	「成年年齢・選挙権年齢の引き下げ」および「こども基本法」の成立等の社会変化に対応した指導の実践	消費者講座、労務講座等と連動した教科指導の実践。 地域選挙管理委員会と連携した生徒会選挙の実施。（主権者教育を実施）	外部講師を呼んで消費者講座を実施することができた。 地域選挙管理委員会と連携して、総選挙の周知等を行うことができた。	A	地域選挙管理委員会と連携した生徒会選挙の実施はできなかったため、今後検討していく。
		TP0 に合わせた、主体的な行動・選択習慣を身に付けさせるため「校則の見直し」へ生徒会の意見を反映させる。	校則を見直し議論することはできたが、生徒の意見を反映させるところまではできなかった。	B	集団に属する人間として、守るべきルールやモラルがあることを再度伝えていきたい。
ウ	キャリア教育の推進による能力・適性・希望に応じたきめ細やかな進路指導	「進路行事を通して進路意識が向上した」と答える生徒 95%以上。 「進路について親と話をすると答える生徒 90%以上。	「進路行事を通して一年間で進路意識が向上した」と答えた生徒 86.5%だった。 「進路について親と話をすると答えた生徒 85.2%だった。	B	進路ガイダンスを各学年 1 回実施した。次年度は商工会議所との連携事業への積極参加を促す。 進路ノート等を活用し、保護者のコメントを求める内容を検討している。
		文化祭や放課後の時間を活用した地域企業による校内でのブース設置、延べ 15 社以上。	商工会議所との連携した「キャリアカフェ」事業を 8 回（参加企業 15 社）実施した。生徒は 100%が参考になったと答えた。	A	連携事業において参考になった内容(生徒回答 93 人) 社員との会話 88.1% 会社説明 66.7% 会社の資料 50.5%
		進学模試や小論文模試などの有効活用を通じた偏差値の向上。 大学進学希望者に関する進路検討会の定期開催（大学入学共通テスト受験対象者の検討を含む） 学びの基礎診断の有効活用と、前回比較で GTZ 向上者 15%達成および D 3 取得生徒への支援。	進学模試(受験 7 名) 令和 6 年度卒業生 数学・理科・英語 2 年次 D 段階 3 人 3 年次 D 段階 4 人 偏差値の向上は達成できなかった。 大学進学希望者の管理職を含めた進路検討会は実施できなかったが、生徒の進学準備としての指導体制は整ってきた。 GTZ 向上者 全体の 49.6% (174 人) 担任や各教科担当から、Dゾーンを中心に生徒への個別の声掛けや指導を実施した。	A	大学第 1 志望合格率 87.5%だった。偏差値の向上はできなかったが進学者補講などが進路実現につながった。 GTZ 向上者は目標を大きく上回ることができた。担任や各教科担当からの働きかけや基礎学力向上週間等の取り組みにより、基礎学力の向上に寄与したものと考えられる。今後は Dゾーン生徒への支援について組織的な対応方法を検討していく必要がある。
		「インターンシップ等をおして、進路意識が向上した」と答える生徒 95%以上。 「インターンシップ等をおした企業研究により企業理解が深まった」と答える生徒 95%以上。	インターンシップに 2 年生が参加し、100%の生徒が「進路意識が向上した。」と回答した。 100%の生徒が「企業理解が深まった。」と回答した。	A	インターンシップの事前指導等を丁寧に行うことで、生徒の進路意識が高まったと感じた。次年度は外部機関と連携して進めていきたい。

	基本的な生活習慣の確立と職業人倫理観の向上	毎日の登校指導の実施。遅刻を各学年 1 日あたり 1 人未満に抑える。	毎日登校指導を実施した。 各学年での遅刻人数 1 年生 0.7 人/日 2 年生 0.7 人/日 3 年生 0.6 人/日	A	朝活の導入により、時間に余裕を持って登校する生徒は増加した。一方で、同じ生徒が遅刻を繰り返す傾向が強まった。
		学習意欲を喚起するための授業改善。必要に応じた教科担当者会議の開催。	授業改善に資する先進事例の共有化を図った(3 件)。 個別対応が必要と考えられる生徒へ対応するために教科担当者会議を開催した(2 回)。	A	先進事例を共有し、生徒の主体性や学習意欲を喚起するための授業改善を支援することができた。 定期テストにおける別室受験や遠隔授業対応を行うための環境整備を行うことができた。
		「人権を意識し、校則(ソーシャルメディアポリシーを含む)や社会のルールを守ろうとしている」と答える生徒 100%の達成。	「人権を意識し、校則(ソーシャルメディアポリシーを含む)や社会のルールを守ろうとしている」と答えた生徒は 97.0%だった。	A	97.0%の生徒が校則を守ろうと努力している。100%を目指して、図書・研修部、生徒支援部、教務部および学年部と情報共有し、規範意識を高めるための指導を実施していく。
		生徒手帳活用に関する新たな方策の策定と運用。 「やるべきときに、やるべきことがやれた」と答える生徒 95%以上。	学校行事、学年、クラスに関して全体に記入指導をした事柄については実行できたと答える生徒が 90%だが、個人の予定について活用したと答えた生徒は低かった。 「やるべきときに、やるべきことがやれた」と答えた生徒は 1 年 93.6%、 2 年 94.7% 3 年 96.7%だった。	A	個人の利用ができなかったので初期指導として活用チェックを行う。 集会指導等の機会をとらえた継続的で粘り強い指導を行う。その際、スケジュール管理の観点にも触れる。
エ	学習指導の充実	公開授業を外部へも公開。 公開授業週間における教員相互の授業参観率 100%達成。 自主的な研究授業実施者 15 人以上。	公開授業とオープンスクールの 2 回、外部へ授業公開をおこなった。(一般来校者 134 人) 公開授業週間における教員の授業参観率は 84.2%だった。 自主的な研究授業実施者 6 人であった。	B	公開授業における授業参観率、自主的な研究授業実施者については目標を達成できなかったため、内容を精査し、来年度へ向け目標を達成できるように実施の時期や方法について改善案を検討する。
		「興味を持って主体的に取り組める授業がある」と答える生徒 100%達成。 「授業が分かりやすい」と答える生徒 95%以上。	「興味を持って主体的に取り組める授業がある」と答えた生徒は 90.4%だった。 「授業が分かりやすい」と答えた生徒は 73.7%だった。	B	「興味を持って主体的に取り組める授業がある」と答えた生徒は、昨年(92.1%)と同水準であった。一方で、「授業が分かりやすい」と答えた生徒は昨年(92.9%)から大きく減少した。カリキュラム変更後、今年度から初めて実施する科目が多数あった年度であるため、授業準備・教材研究不足

					が要因と推察される。今後は一人一台端末等を活用し、向上に努める。
		教職員研修の実施。	AI 採点システムの利用研修を5回実施した。	A	テスト結果をデジタル化することで学習成果の確認が容易になった。「採点時間が短縮できた」と回答する教員が50%以上であった。
	「役立ち感育成プロジェクト」の推進	「この1年間で、他団体との交流やボランティア活動に参加したことがある」と答える生徒65%以上。	「この1年間で、他団体との交流やボランティア活動に参加したことがある」と答えた生徒は48.2%（136人）だった。	B	一昨年21%、昨年42%と参加生徒は着実に増加したが、目標値には達しなかった。今年度に継続して、イベントの情報収集や発信を早期から行うとともに、部活動単位での活動を一層、促していく。
オ	Society5.0を生き抜く人材育成へ向けた産業教育の推進	ものづくりに関心があると答える生徒90%以上。 イベントや出前講座等による学習成果の発表を年間3回以上（各工業学科ごと）	「ものづくりに関心がある」と答えた生徒は80.5%だった。 全科がイベントや出前講座等による学習成果の発表を年間3回以上実施した。	B	イベント等へ参加する生徒が多くなり、本校の広報活動に貢献した。 「ロボットアイデア甲子園」全国大会に出場した。
	高大連携や企業等による外部指導者の充実および専門的スキルの向上と視覚化	外部指導者の活用を年間3回以上（各工業学科ごと）	企業による講座や説明会の活用は、全科合計20回（科平均4回）実施した。	A	3Dプリンターを活用した、東洋レジン株式会社とのコラボレーションを、今後も継続していきたい。
		「資格取得に向け、積極的に取り組んでいる」と答える生徒80%以上。	「資格取得に向け、積極的に取り組んでいる」と回答した生徒は58.9%だった。	B	1年生で情報技術検定3級の全員受検を実施した。 資格取得に向けて挑戦した生徒たちは8割を超えている。しかし、生徒自身が積極的に取り組んでいると思う意識が低かった。 今後は、生徒による自発的な受検申込の機会を増やし、主体的に取り組む姿勢を養いたい。
		技能競技大会等へ積極的に参加し、4種目以上で上位入賞する。	3科がものづくり競技大会に参加した。 溶接全国大会「4位入賞」、ジャパンマイコンカーラリー2025 東海大会ベーシッククラス「4位入賞」、ロボットアイデア甲子園「企業賞入賞」、県ロボット競技大会MCR部門ベーシッククラス「5位入賞」、全国プラモデル選手権大会「出場」。	A	生徒の積極的な参加は見られる。しかし、ものづくり競技大会、技能競技大会への練習が2年生からとなり、練習時間確保が厳しい。

	企業人として必須である安全意識の確実な醸成	「実習・実験では、5Sおよび安全確保を意識して取り組んでいる」と答える生徒100%達成。	実習・実験で、「5Sおよび安全確保を意識して取り組んでいる」と答える生徒は97.2%だった。	A	実習・実験の前に必ず安全教育を実施し、作業での安全の大切さを考える機会を設けた。
カ	ホームルーム活動および生徒会活動の自主的な運営	「伝統行事である吉峰祭に積極的に参加し、係の仕事を行った」と答える生徒100%達成。 清掃活動や環境整備作業に積極的に取り組んでいると答える生徒70%以上。	吉峰祭に積極的に参加し、係の仕事を行ったと回答した生徒が88%であった。 清掃活動、環境整備作業に積極的に取り組んでいると回答した生徒は、69.8%で概ね達成できた。	B	吉峰祭が、大会とぶつかってしまった部活動が多かった。 商工会議所との連携を強め、生徒が企業ブース出展のサポートをできるよう検討していく。
	部活動の活性化	「部活動に無断で休まず取り組んでいる」と答える生徒85%以上。 部活動壮行会の定期的な開催。	部活動に無断で休まず取り組んでいると答えた生徒が75%だった。 東海大会、全国大会に出場する部活動や個人について、その都度壮行会を行った。	B	時代の変化により、部活動の意義が薄れつつある。各部活動で、目標や目指す資質等を示す必要がある。
	読書活動を通じた知性・創造力の育成	図書だよりの定期的な発行と貸出数の増加。 「朝読書の時間は有意義だ」と答える生徒80%以上。 「図書館やフリーレンタルブックコーナーにある本を今年度読んだ」と答える生徒70%以上。	図書だよりの発行数は年間で5部。図書の貸し出し数は297冊。(昨年度229冊) 「朝読書の時間は有意義だ」と答えた生徒は66.9%だった。 「図書館やフリーレンタルブックコーナーにある本を今年度読んだ」と答える生徒43.0%。	B	図書館への来館生徒数は多く、リクエストによる本の購入も102冊と多いが、特定の生徒に偏っている。 年3回の朝読書週間を利用し、本に親しむ習慣を根気強く育てていく。 コミック本を購入し、イベントを開催して、来館者は増えていると感じている。しかしながら、本を読むという習慣になかなか結びつかないのが現状と考える。
	放送活動を通じた学校教育の活性化と、生徒の主体性の育成	昼休み、体育祭、吉峰祭における放送業務の実施。 校外イベントへの放送担当としての参加。	それぞれの行事で放送計画を立て、生徒は主体的に計画通り活動できた。 未来の科学者フェスティバルおよび静岡県高校生ロボット競技大会に放送担当として参加した。	A	各行事で生徒が主体的に活動できる実施計画をたてることができた。 校外イベントで生徒は生き生きと活動した。生徒の活躍機会を充実させることができた。
	キ	学校公開・情報発信の充実による地域・家庭との信頼関係の構築	学校ホームページのCMS移行や、学校案内および広報チラシのデザインと配布方法等に関し、グローバルな視点から有効な広報方法を検討する。 夏季休業中に1年生・進路決定後に3年生が母校訪問を実施することで効果的な広報活動を展開する。	県の広報デザイン支援事業を受け、デザイン事務所と連携して学校案内やポスター等のデザインを一新した。 昨年度に引き続き、夏季休業中で高1生による母校訪問を実施し、行事として定着化させた。実施できない中学校は管理職が訪問し、本校の認知度	A

		<p>富士地域におけるイベントへの参加に加え、新たな工業系イベント(プラサヴェルデ開催)に全学科が参加すること等により、小中学生保護者への発信を含めた広報活動に繋げる。</p>	<p>等を分析した。 富士地域のイベント ものづくり力交流フェア全科参加予定 ジャトコフェスタ2科参加 新たな工業系イベントに全科参加し「未来の科学技術者フェスティバル」に来場した小中学生、その保護者にもものづくりの楽しさを発信した。</p>		<p>どのイベントにおいても、ものづくりの体験を求めている小中学生や保護者が非常に多く、長蛇の列ができた。来年度は、待ち時間を短縮することで、より多くの方々へ体験の機会を設ける方法を考えたい。</p>
		<p>投稿担当者を明確にすることで、公式ホームページへの投稿月平均10回以上。 投稿担当者を明確にしつつ、公式SNSを精選統合することでフォロワー1200以上。</p>	<p>SNSへの年間の投稿数が135件であり月平均11.25件であった。 公式SNSをInstagramへ統合した。フォロワー：1081人、投稿数：135件(2025.1.15)</p>	B	<p>投稿担当者を各学年・分掌・部活動で設定することを次年度目指す。</p>
		<p>「研修等を通し、不祥事根絶に向けた意識が高まっている」と答える教職員100%達成。</p>	<p>職員会議の中で、コンプライアンス研修をこれまで、12回実施して不祥事根絶の強い意識を維持することに努めた。教職員へのアンケートで96.2%が「高まっている」と回答した。</p>	A	<p>教職員の不祥事根絶の意識向上が100%になるように、コンプライアンス研修の方法等を工夫していく。</p>
ク	<p>自律的で信頼される学校事務の推進</p>	<p>監査での文書指摘事項をゼロにする。</p>	<p>各担当者が積極的に工夫してチェックリストを作成・活用し、監査での指摘はなかった。</p>	A	<p>教職員全体の理解がより進むような資料の作成や掲示板の活用を考えたい。</p>
		<p>「施設や設備は安全が保たれている」と答える生徒、保護者ともに90%以上。</p>	<p>「施設や設備は安全が保たれている」と答えた生徒92.9%、保護者94.5%だった。</p>	A	<p>これからも教職員、生徒等からの気付きや要望の把握に努め、安全面を最優先に整備を進めます。老朽化への対応は予算面の課題がある。</p>
ケ	<p>働き方改革に向けた業務改善</p>	<p>新システム活用に関する研修会等を開催し、「採点時間が短縮された」と答える教員80%以上。</p>	<p>これにより「採点時間が短縮された」と答えた教員は94%だった。</p>	A	<p>より効果的な活用方法を検討することで、さらなる業務改善につなげる。</p>
		<p>「定時退勤日に定時退勤に向けた目標を立てて取り組んだ」と答える教職員が95%以上。</p>	<p>毎月定時退勤調査を実施し、年間通して96.3%の教職員が「目標を立てて取り組んだ」と答えた。</p>	A	<p>教職員ひとりひとりが、勤務時間の意識を高めるように啓発していく。</p>
		<p>「部活動の活動計画に基づき活動できた」と答える教職員100%達成。</p>	<p>「今年度、部活動の活動計画に基づき活動できたか」という問いに「できた」と答えた教職員は100%であった。</p>	A	<p>昨年度実績で100%達成を実現し、今年度目標値を100%としたが、継続達成とすることができた。今後は「部活動の基本方針」に基づき、適切に休養日が設定されることを重視したい。</p>

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	安全教育の推進と危機管理能力の向上	交通マナーおよび危険予知の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「登下校時、交通法規を遵守している」と答える生徒100%達成。 ・イエロー切符受領者各学年20人未満。
		自転車通学者が主体的に車両整備に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・T Sマークに関する指導を徹底し、整備不良事故0件。
		自治体等、地域との連携を深め、地域安全に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練への参加率65%以上。訓練不参加者へ学習機会の提供。 ・「地震等大規模災害発生時の連絡方法や行動について親と話し合っていて決めている」と答える生徒70%以上。 ・外部機関と連携した実践的な防災教育の継続。
	予防的危機管理の実施	実習・実験等による安全管理を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> ・工場安全パトロールに対応し、実習室の整理整頓を行うとともに、事故0達成。
		生徒の生活面の状況を把握し、早期指導に繋げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・面接週間の定期的な実施：各学期1回。 ・生活アンケートの定期的な実施：各学期1回。
	健康指導の推進	他団体との連携を推進するとともに、健康に関する知識・能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食欠食者へのセミナーの充実。 ・朝食摂取率95%以上。 ・歯磨き習慣に関する実態把握と率向上。 ・新入生オリエンテーションでの保護者への呼びかけや、健康管理を題材とした全校集会を実施することで、健康診断結果による再検査受診率を向上させる。
自己の健康管理を意識させる新体力テストで、男女ともに表彰を目指す。		<ul style="list-style-type: none"> ・「1年間で体力が向上した」と答える生徒90%以上。 	
イ	自立や社会参画へ向け、生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握と適切な指導および必要な支援の実践	不登校や学校不適応を早期把握し、支援・指導を充実させることで、生徒を救い育て卒業へ導く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「チーム担任」による学級経営力の強化。各クラス3名の正副担任による取組。 ・適切なタイミングでの保護者連携方法の運用と確立。 ・ケース会議の随時開催。 ・必要に応じた個別の指導計画の作成と活用。 ・教職員間の情報共有強化へ向け情報交換会の週1回定期開催の拡大(1年部1h・2/3

			<p>年部 1 h、月 1 回 SSW 参加)と校内研修の開催 1 回以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命を守る教育として 年度当初全職員へ関係資料の配布 厚生労働省による 2 学期当初の自殺防止の取組を活用 LHR で警察署員を招いた「命の大切さを学ぶ教室」の開催。 職員安全衛生委員会と連携し窓ロックの設置(目が届きにくいトイレ等) 教職員対象普通救命講習の早期実施(5 月中間テスト初日)。 ・教育相談調査票(入学時提出)および保健調査票等の見直し。
		<p>新生徒指導提要および新学習指導要領に則り、積極的に外部機関を活用することで指導を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所や N P O 法人、および警察・市役所等の外部機関との連携を更に強化する。その一環として関係機関から障害者の就業支援について説明する機会を設けることを検討する。
	<p>「成年年齢・選挙権年齢の引き下げ」および「こども基本法」の成立等の社会変化に対応した指導の実践</p>	<p>教科指導と特別活動の往還により、成年年齢・選挙権年齢の引き下げに対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者講座、労務講座等と連動した教科指導の実践。 ・地域選挙管理委員会と連携し、主権者教育を実施したうえで生徒会選挙の実施。
		<p>新生徒指導提要で重視されている、発達支持的生徒指導を推進することで、生徒の自己決定権を尊重しながら自己指導能力を伸張し、主体的・持続的で正しい行動習慣を涵養する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・TPO に合わせた、主体的な行動・選択習慣を身に付けさせるため「校則の見直し」へ生徒会の意見を反映させる。
ウ	<p>キャリア教育の推進による能力・適性・希望に応じたきめ細やかな進路指導</p>	<p>進路意識の早期定着と向上を目指し、新たに整理した系統的な進路指導体制(「高校生のキャリアワーク」「志望理由」の活用計画の作成、就職希望者全員の「求人票閲覧システム」への移行、「進路検討会」への管理職参加)を充実させることで、進路実現を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路行事を通して進路意識が向上した」と答える生徒 95%以上。 ・「進路について親と話をする」と答える生徒 90%以上。
		<p>商工会議所等と連携し、地域の産業理解を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や放課後の時間を活用した地域企業による校内でのブース設置、延べ 15 社以上。 ・生徒アルバイト先に関する商工会議所との連携協議。

		<p>進路学力として、基礎基本の習得に加え、生徒個々で異なる進路目標を達成するための支援を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進学模試や小論文模試などの有効活用を通じた偏差値の向上。 ・大学進学希望者に関する進路検討会の定期開催（大学入学共通テスト受験対象者の検討を含む）。 ・学びの基礎診断の有効活用と、前回比較でGTZ向上者30%達成およびD3取得生徒への支援。
		<p>インターンシップ、ワークラリー、海外インターンシップ等、地元企業との連携を密にし、キャリア教育の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「インターンシップ等をとおして、進路意識が向上した」と答える生徒95%以上。 ・「インターンシップ等をとおした企業研究により企業理解が深まった」と答える生徒95%以上。
基本的な生活習慣の確立と職業人倫理観の向上		<p>アフターコロナを意識した出席率の向上。時間厳守と挨拶の励行。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の登校指導の実施。 ・遅刻を各学年1日あたり1人未満に抑える。
		<p>学びへ向けた教室文化を醸成することで、生徒の学習環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を喚起するための授業改善。 ・必要に応じた教科担当者会議の開催。
		<p>教科指導と特別活動により年間を通して切れ目のない人権教育を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権を意識し、校則(ソーシャルメディアポリシーを含む)や社会のルールを守ろうとしている」と答える生徒100%の達成。
		<p>生徒手帳への記入習慣化等を通して、自己管理能力の伸張を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒手帳活用に関する新たな方策の策定と運用。 ・「やるべきときに、やるべきことがやれた」と答える生徒95%以上。
エ 学習指導の充実		<p>公開授業を充実させることで授業改善に繋げる。 他教科との授業交流を行い、授業改善(教材研究)に積極的に取り組む。 この時、教科横断的視点の導入を踏まえた取組を考慮する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業を外部へも公開する。オープンスクールと合わせて一般来場者200人以上。 ・公開授業週間における教員相互の授業参観率100%達成。 ・自主的な研究授業実施者15人以上。年次研修者による積極的な取組。配布資料はワークシートのみでも可。
		<p>新学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業改善・学習評価改善への取組を一層進め、生徒が主体的に取り組める授業づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「興味を持って主体的に取り組める授業がある」と答える生徒100%達成。 ・「授業が分かりやすい」と答える生徒95%以上。

		新学習指導要領に則った、生徒の1人1台端末の活用推進および教育の情報化推進。	・教職員研修の実施（端末活用研修の継続、HP・SNS アップ研修の実施）
		生徒への学習指導状況と効果を踏まえ、指導体制を見直す。	・新学科による教育課程が完成年度を迎えることから、教育課程の見直しを行う。
	「役立ち感育成プロジェクト」の推進	地域との交流を積極的に行うことにより、コミュニケーション能力と自己有用感を育てる。	・「この1年間で、他団体との交流やボランティア活動に参加したことがある」と答える生徒 65%以上。
		生徒のチャレンジ精神を育成することを通して、自己有用感を醸成する。	・「吉工 TED」の試行を行う。 TED = Technology Entertainment Design
オ	Society5.0を生き抜く人材育成へ向けた産業教育の推進	探究的な学びを充実させるとともに、新学科対応へ向けた実験・実習の工夫・改善を行い、生徒の学習成果の発表機会を充実させる。	・「ものづくりに興味を持っている」と答える生徒 90%以上。 ・イベントや出前講座等による学習成果の発表を年間3回以上（各工業学科ごと）
	高大連携や企業等による外部指導者の充実および専門的スキルの向上と視覚化	外部指導者を積極的に活用することで、工業教育を充実させる。	・外部指導者の活用を年間3回以上（各工業学科ごと）
		生徒の技術・技能向上に取り組む、資格検定取得者数の増加を図る。	・「資格取得に向け、努力している」と答える生徒 80%以上。
		工業高校で学んだ知識技能を外部大会で発揮する機会を提供する。	・技能競技大会等へ積極的に参加し、4種目以上で上位入賞する。
	企業人として必須である安全意識の確実な醸成	実習・実験時において、5Sに関する指導を徹底して実践する。	・「実習・実験では、5Sおよび安全確保を意識して取り組んでいる」と答える生徒 100%達成。 ・企業人による安全講習の実施。
		服育の一環として、実習服着用指導を行うことで、相乗的効果を上げる。	・入学時オリエンテーションで実習服に関する内容を入れる。
カ	ホームルーム活動および生徒会活動の自主的な運営	行事等を成功させ、自己有用感を育む。 各専門委員会の活動を活性化させ、主体性および協調性を育てる。	・「伝統行事である吉峰祭に積極的に参加し、係の仕事を行った」と答える生徒 100%達成。 ・清掃活動や環境整備作業に積極的に取り組んでいると答える生徒 70%以上。
	部活動の活性化	部活動の活動計画に沿って、効率的効果的に活動し、参加し易い環境を整える。 生徒による応援活動により愛校心を育て、選手の自己有用感の醸成を図る。	・「部活動に無断で休まず取り組んでいる」と答える生徒 80%以上。 ・部活動壮行会の定期的な開催。

	読書活動を通じた知性・創造力の育成	本に親しむ習慣を身に付けさせるとともに図書館活用の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりの定期的な発行と貸出数の増加。 ・「朝読書の時間は有意義だ」と答える生徒 80%以上。 ・「図書館やフリーレンタルブックコーナーにある本を今年度読んだ」と答える生徒 70%以上。
	放送活動を通じた学校教育の活性化と、生徒の主体性の育成	生徒が放送業務を主体的に運営する環境を整備し、生徒の活躍機会を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み、体育祭、吉峰祭における放送業務の実施。 ・校外イベントへの放送担当としての参加。
キ	学校公開・情報発信の充実	工業高校の魅力を見直し、積極的に広報する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページのCMS移行や、学校案内および広報チラシのデザインと配布方法等に関し、グローバルな視点から有効な広報方法を検討する。 ・夏季休業中に1年生・進路決定後に3年生による母校訪問を実施することで効果的な広報活動を展開する。
		公式ホームページや公式SNSを活用した学校広報活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・投稿担当者を明確にすることで公式ホームページおよびSNSの投稿月平均10回以上。 ・投稿担当者を明確にしつつ、公式SNSを精選統合することでフォロワー1500以上。
		情報公開を推進することで体験入学者数を増加させる。	・体験入学参加者数、前年度比15%アップ。
		体験入学の内容を充実させることで工業を志す中学生を増加させる。	・体験入学について「とても満足できた」と答える参加者65%以上。
ク	自律的で信頼される学校事務の推進	法令を遵守し、正確で迅速な会計事務処理を行う。	・監査での文書指摘事項をゼロにする。
		教職員と連携した施設設備の安全点検を実施し、計画的に改善への取組を行い、安心安全な教育環境の整備を行う。	・「施設や設備は安全が保たれている」と答える生徒、保護者ともに90%以上。
ケ	働き方改革に向けた業務改善	ブラウザ型AI採点システムの導入により教員の採点時間軽減を図る。	・新システム活用に関する研修会等を開催し、「採点時間が短縮された」と答える教員95%以上。
		定時退勤に向けた目標を立て、取り組む。	・「定時退勤日に定時退勤に向けた目標を立てて取り組んだ」と答える教職員95%以上。
		部活動の活動計画に基づいた実施に努めるように働きかける。	・「部活動の活動計画に基づき活動できた」と答える教職員100%達成。

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取組概要	成果及び課題（現在までの進捗状況など）
令和6・7年度	<p>【生徒支援部の特色ある取組】 教員による登校指導と、風紀委員会・部活動有志による朝の挨拶運動 サイクルマナーアップ教室を複数回実施 SNS利用の注意喚起 生徒指導・相談記録の共有 いじめ防止に向けた、安全安心アンケートを年2回実施 学年主任連絡会の実施、相談室との連携 富士商工会議所との連携による文化祭の実施</p>	<p>【生徒支援部の特色ある取組】 登校時の生徒の様子を観察し、共有して初期対応に繋げている。挨拶運動では生徒が主体となって挨拶することで、挨拶をする生徒が増加している。 自動車学校と連携した実地訓練を行うことで、大きな自転車事故を防止できている。 情報担当と連携し取り組んでいるが、指導は非常に難しいと感じている。 生徒指導・支援の体制をとりやすくなっている。 安全安心アンケートを7月に実施し、アンケートを基に生徒から聞き取りをした。 情報共有がしやすく、学年を超えて対処法を考える機会になっている 文化祭に企業が出展し、その出展準備に生徒が関わっている。</p>
	<p>【教務部の特色ある取組】 年間3回の基礎診断テストを実施する。 基礎診断テストの学習分析会を外部講師に依頼して実施し、生徒の学習状況の把握を行い、授業改善につなげる。 遠隔授業の実施体制を構築する。 AIを活用した議事録作成による業務軽減</p>	<p>【教務部の特色ある取組】 基礎診断テストを学期初めに実施した。 学習分析会を6月に実施し、生徒の学習状況について把握した。 遠隔授業を行うための役割分担や環境整備を行った。 業務軽減を行うために、AIを活用した議事録の作成方法を模索した。</p>
	<p>【進路支援部の特色ある取組】 ・昨年度に引き続き、富士商工会議所との連携し、1・2年生を対象としたキャリアカフェ(企業の事業内容紹介)を実施した。 ・学校の教育活動として、8:30から8:35を「朝活」の時間と位置付け、無言で自学自習に散り組んでいる。</p>	<p>【進路指支援部の特色ある取組】 ・キャリアカフェはこれまで3回実施した。協力企業6社。進路意識の低い生徒も楽しみながら進路を考え、自分のキャリアを意識している。 ・生徒は朝から落ち着いて学ぶ環境に馴染んでいた。朝読書週間や検定試験前などは、「朝活」をその活動に流用することを認めた。</p>
	<p>【図書・研修部の特色ある取組】 ・全校アンケートやリクエストボックスを通して図書を新規購入している。 ・図書委員による図書だよりの発行。 ・生徒アンケートによる芸術鑑賞内容を決定している。 ・年に3回の朝読書週間を実施している。 ・富士市立中央図書館「ふじ電子図書館」の利用を進めている。 ・青少年赤十字文庫の整備事業に参加している。</p>	<p>【図書・研修部の特色ある取組】 ・生徒が希望する図書を中心に購入を行っている。 ・図書だよりは1学期に2回発行し、全クラスに掲示した。 ・芸術鑑賞の内容は生徒アンケートで決定。 ・課題は読書に親しむ生徒の割合が低いことで、朝読書週間や広報活動を通して読書の楽しさを広めたい。</p>
	<p>【保健支援部の特色ある取組】 教育相談に関する情報交換会</p> <p>居場所カフェ</p> <p>コミュニケーションスキルアップ講座</p> <p>夏休み中の健康調査</p> <p>職員の救命講習</p>	<p>【保健支援部の特色ある取組】 授業日の水曜日に2時間程度実施しており、その回数は、過去1年間で24回になっている。生徒支援部や学年部等との連携が強まり、教育相談が必要な生徒を確実に把握することができ、SSWの効果的な活用につながっている。なお、SSWも月に1回参加している。 富士市若者相談窓口「ココカラ」と連携して各学期末に実施し、日ごろの緊張感を和らげるとともに、家庭環境が厳しい生徒等に対して生活物資を提供している。立ち寄り生徒は毎回100人を超えている。 コミュニケーションや人間関係形成能力に課題を抱えた生徒を対象として、毎月1回、1時間程度実施している。アンケートの結果は概ね良好で、今後も継続していく予定である。なお、講師は富士市若者相談窓口「ココカラ」の相談員が務めている。 アンケートの回収率(Web)が50～60%に止まっているが、心に課題を抱えた生徒を早期に見出したり、新学期に向けた準備を促したりすることができている。 熱中症への備えを含め、年に1回、希望する職員に救命講習(3時間)を実施している。参加者数は毎年十数名である。</p>

<p>食育</p>	<p>富士市管理栄養士と連携し、文化祭での展示や栄養相談、3年生対象の食育講座を実施している。</p>
<p>【未来戦略委員会の特色ある取組】 広報活動の基本となるコンテンツである「本校の魅力」を、委員および有志で洗い出し、具体的な行動に結び付けている。学校説明会用のプレゼン資料や広報紙を委員間で共有し、意見を募った。本年度は「YOSHIKOU CAMP」や「吉工 TED」の企画に取り組み、計画・立案を進めた。また、昨年度は学校案内を刷新して制作したが、本年度はその成果を活用し、新たに学校PR用の学校案内を作成した。さらに、夏季休業中には昨年度に引き続き、高校1年生による母校訪問を計画・実施した。加えて、生徒のボランティア参加率向上を目指し、そのデータを取りまとめて共有した。</p>	<p>【未来戦略委員会の特色ある取組】 本校の魅力を踏まえたチラシ作成や学校プレゼン資料の更新を進めた。また、8月には高1生による母校訪問を実施し、生徒自身による広報活動が展開されている。さらに、母校訪問に合わせて管理職による学校訪問も行い、今後の広報活動へと繋がるPR活動を展開できた。今後は、生徒のボランティア参加率をさらに高めるための工夫を検討していきたい。</p>
<p>【工業科の特色ある取組】 地域の子供たちへものづくり教室の運営(地域貢献)</p> <p>高大連携による研究</p> <p>地元企業である東洋レヂン株式会社とAerial Baseと一緒に3Dプリンタとドローン技術に関するのコラボレーションしている</p>	<p>【工業科の特色ある取組】 地域の子供たちに対して、ものづくりの楽しさを伝えるために生徒たちが先生となり指導した。 静岡理工科大学の電気電子科の教授と大学院生が来校し、また、本校生徒が大学へ行き、生体に関して講義を受け、生体ミニ四駆等を製作・研究した。 2年生の実習の授業に参加して頂き、3Dプリンタの操作方法やアドバイスを受け、ドローンの部品の製作、また、ドローン技術を学んだ。</p>
<p>地域イベントにおけるワークショップ出展。ロボットのプログラミング講座を生徒が運営した。</p>	<p>8月に沼津市にて実施した。小学生以下を対象とし、お掃除ロボットの教育版タイプを自由に操作した。</p>
<p>課題研究の「ペットボトルキャップの再資源化」において、東洋レヂン株式会社から直接指導と、フィラメントの製造を依頼している。「こども夏大学」のイベントに参加し、多くの子供たちにロボットのプログラム体験やバスボム作りを体験してもらった。</p>	<p>課題研究では、数理工学科とシステム化学科の課題研究発表会に、東洋レヂン株式会社に参加して頂き、生徒の研究報告に対して専門家の視点から講評を頂いた。 「こども夏大学」では、ボランティアの生徒達が地域の子どもたちに教えることで、さらに理論や操作の理解を深めることができた。</p>
<p>3年生の課題研究では、セルロースナノファイバー(CNF)に関係したテーマで、生徒が積極的に外部と連携した活動を行った。</p>	<p>数理工学科の生徒が東洋レヂンや日本製紙に企業見学を行い、CNFを利用した事業を間近で見ることができた。更に、工業技術センターでCNFの生成方法を教わることで、課題解決に向けた学習をすることができた。 理数化学科の課題研究では、生徒が講演会に参加し、CNFの概要や富士市の取り組みを学ぶことができた。</p>
<p>高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)の取組として、デジタル技術を活用した授業を実施し、探究活動を行った。</p>	<p>デジタル人材の育成に資する高度なデジタル機器を、生徒自身が活用できる実習環の整備を推進している。 AI、3Dプリンタ、VR、ドローンなどを用いた授業を、外部の企業と協力して展開している。</p>

5 教職員について

(1) 異動状況

(単位：人)

職名 区分	本 務 職 員											臨時・会計年度任用職員							合 計			
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	主 任 実 習 助 手	実 習 助 手	事 務 長	主 任	技 能 長	主 任 技 能 員	小 計	教 諭 任	教 諭 臨	特 別 教 諭	非 常 勤 講 師	非 常 勤 労 務 職 員	非 常 勤 嘱 託 員		部 活 動 指 導 員	小 計	
転 出			1	6			1	1	1			10										10
退 職	1			8	1						1	11		2	1	11	2	1	1	1	18	29
転 入			1	4		1		1	1			8										8
新 任	1	1		5	1						1	9	1	1	1	12	2	1	1	1	19	28
役 職 年 定		1										1										1
差 引 増 減	0	0	0	5	0	1	1	0	0	1	1	5	1	1	0	1	0	0	0	0	1	4

(2) 現員数

(令和7年7月31日現在)(単位：人)

職名 区分	本 務 職 員											臨時・会計年度任用職員							合 計			
	校 長	副 校 長	教 頭	事 務 長	教 諭	養 護 教 諭	主 任 実 習 助 手	実 習 助 手	主 査	主 任	主 任 技 能 員	小 計	教 諭 (任)	教 諭 (臨)	特 別 教 諭	非 常 勤 講 師	非 常 勤 労 務 職 員	非 常 勤 嘱 託 員		部 活 動 指 導 員	小 計	
計	1	1	1	1	42	2	1	2	1	1	1	55	1	1	1	12	2	1	1	1	19	74

(再掲) 暫定再任用職員：フルタイム 4人、ハーフ 2人

(3) 健康管理について

令和6年度		令和7年度	
目的	内容及び成果と課題	目的	内容及び課題
職員の疾病予防	<p>緊急時の対応について、消防主催の救命救急講習会を年に2回実施した。</p> <p>各種健康診断の要精密検査該当者に対し、早期受診を勧め、疾病の早期発見早期治療につながるよう努めた。</p> <p>悩みを抱える職員に対し、面談等の対応を実施した。</p> <p>長時間勤務者に対する健康管理医面談において、健康面での情報提供をして連携をはかった。</p> <p>職場の健康づくり講座では、職員の希望でピラティスを実施した。</p>	職員の疾病予防	<p>緊急時の対応について、消防主催の救命救急講習会を実施し、終了証を発行していただく予定。</p> <p>各種健康診断の要精密検査該当者に対し、早期受診を勧め、疾病の早期発見早期治療につながるよう努める。</p> <p>悩みを抱える職員に対し、面談等の対応を実施する。</p> <p>長時間勤務者に対する健康管理医面談において、健康面での情報提供をして連携をはかる。</p> <p>職場の健康づくり講座では、職員の希望に沿った講座を実施予定。</p>
情報提供等	<p>保健だより健康情報を掲載し、情報提供をした。</p> <p>健康管理医による職場巡視の結果及び改善策を周知した。</p> <p>職員から提出されたヒヤリハットを共有し、事故防止に活用した。</p>	情報提供	<p>校内掲示や、保健だよりによる健康情報を提供する。</p> <p>健康管理医による職場巡視の結果及び改善策を周知する。</p> <p>職員から提出されたヒヤリハットを校内で共有し、事故防止に努める。</p>
多忙化解消	<p>保護者からの欠席連絡、長期休業中の動静一覧表などを、スプレッドシートに変更して簡素化することで、多忙化を減少させることができた。長期休業中の時差勤務試行は、管理が煩雑であった。</p>	多忙化解消	<p>本年度も、Googleの各種サービス(スプレッドシートやフォーム等)を活用し、保護者からの欠席連絡、長期休業中の動静一覧表作成、学校祭やオープンスクールに参加する生徒のデータ集計等を効率的に行う。</p>
職場の環境整備	<p>本年度は昨年度の安心安全パトロールの結果を踏まえ、各担当が危険個所を改善した。</p>	職場の環境整備	<p>これまでの安心安全パトロールの結果を踏まえ、各担当が危険個所を改善している。</p>

(4) 教職員の研修について

令和6年度		令和7年度	
目的	内容及び成果と課題	目的	内容及び課題
不祥事根絶	<p>懲戒処分の公表は、毎回校長が内容を周知するとともに、法令遵守と綱紀の厳正保持に努めるよう、教職員に直接、指導した。</p> <p>交通安全については「教職員交通安全ニュース」が配信される都度、副校長が職員に対して注意喚起を行った。</p> <p>各月の職員会議後には不祥事根絶研修を実施し、副校長が教職員として高い倫理観をもち職務に専念するよう指導を行った。</p>	不祥事根絶	<p>4月から毎月の職員会議で不祥事根絶研修を実施し、コンプライアンス通信を元に、不祥事の事例や原因等について全教職員で共有し、再発防止に向けた指導を行った。</p> <p>児童生徒性暴力等の防止に向けた研修は特に重点を置き、校内の「死角」の確認については教職員によるペアワークで活発な議論があった。</p> <p>今後は教職員が「自分事」として不祥事を客観的にとらえ、根絶に取り組めるような研修を進める。</p>
人権教育	<p>年度当初に配布した「静岡県人権教育の手引き」を活用した。また、8月に静岡県人権教育担当者研修会を受講し、研修会資料を掲示板にて全職員に案内し、静岡県の人権教育についての理解をうながした。</p>	人権教育	<p>年度当初4月には「静岡県人権教育の手引き」の配布を行い、本県の人権教育の基本方針や年間指導計画作成等について理解した。</p> <p>6月にはスクールカウンセラーを講師に迎えた校内研修を実施し、生徒の人権を意識した支援方法を学んだ。</p>
学力向上	<p>年間2回公開授業週間を設け、教職員相互の授業参観、評価を行った。</p> <p>基礎力診断テストの学習分析会を外部講師に依頼し、後半は10月に実施した。生徒の学習状況の把握を行い、授業改善につなげた。</p>	学力向上	<p>6月に外部講師による基礎力診断テストの学習分析会を実施し、担任の他、副校長も参加した。生徒の学力層別の現状や課題を参加者で共有し、生徒支援や授業改善につなげた。</p> <p>6月に授業公開週間を設け、教職員相互や管理職による授業参観、評価を行った。年次研修該当者は研究授業を交えて、教科内での研鑽を高めた。</p> <p>7月の定期訪問における教科別研修や全体研修では、県総合教育センターから御助言をいただき、指導法や評価法の改善に向けた新たな方策を見出した。</p>

6 防災対策について

令和6年度		令和7年度	
目的	内容及び成果と課題	目的	内容及び課題
防災訓練	6月に震度6強の地震発生を想定した避難訓練を実施した。12月に防災講話を実施した。訓練に参加する意識も高く、講話も真面目に聞き、知識を付けていた。	防災訓練	5月に震度6強の地震発生を想定した避難訓練を実施した。11月に防災講話を実施する予定。 生徒数が少なく、避難訓練が早く終わってしまうため、富士市の管轄部署を調べ、演習内容を検討したい。 発電機を毎年1度は動かしたい。
職員の防災対策	危機管理マニュアルを改訂し、全職員に周知して防災への対応をより具体化した。職員緊急連絡網を作成し、有事の際の伝達ルートを確認した。	職員の防災対策	危機管理マニュアルの記載情報を最新版に更新すると共に、熱中症対策を含む防災への対応の流れをより明確にし、教職員に周知する。
生徒の防災対策	6月の避難訓練で各教室から避難経路に沿ってグラウンドまで移動した。 各学年の防災リーダーを任命し、防災に対する意識付けを行った。 全生徒分の備蓄品（水、カンパン、防災シート）を校内に保管した。	生徒の防災対策	5月に各教室から避難経路に沿ってグラウンドまで移動する避難訓練を実施し、各学年の防災リーダーを任命した。 全生徒分の備蓄品（水、カンパン、防災シート）を校内に保管した。
地域との連携	地域防災教育連絡会議に参加した。	地域との連携	地域防災教育連絡会議に参加する予定。

7 学校開放について

学校の施設設備を有効に活用し、地域に開かれた学校となるため、学校教育活動等に支障のない範囲で積極的に開放している。

(令和7年7月31日現在)

施設名	利用種目	令和6年度		令和7年度		備考
		利用日数	延べ利用者数	利用日数	延べ利用者数	
格技場 体育館	剣道	39	394	39	496	電気料利用者負担 6年度 50,436 円 7年度 25,685 円
	バドミントン	10	49	0	0	
	レスリング	82	559	48	304	
	バスケット ボール	0	0	1	5	
テニス コート	テニス	40	157	48	245	
運動場	サッカー	38	348	17	131	
計		209	1,507	153	1,181	

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、 第52条、第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令 産業教育振興法（第18条） 産業教育振興法施行令
2 学校の管理・運営に関する こと	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 社会教育法（第43条、第45条、第47条） 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県手数料徴収条例 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） いじめ防止対策推進法

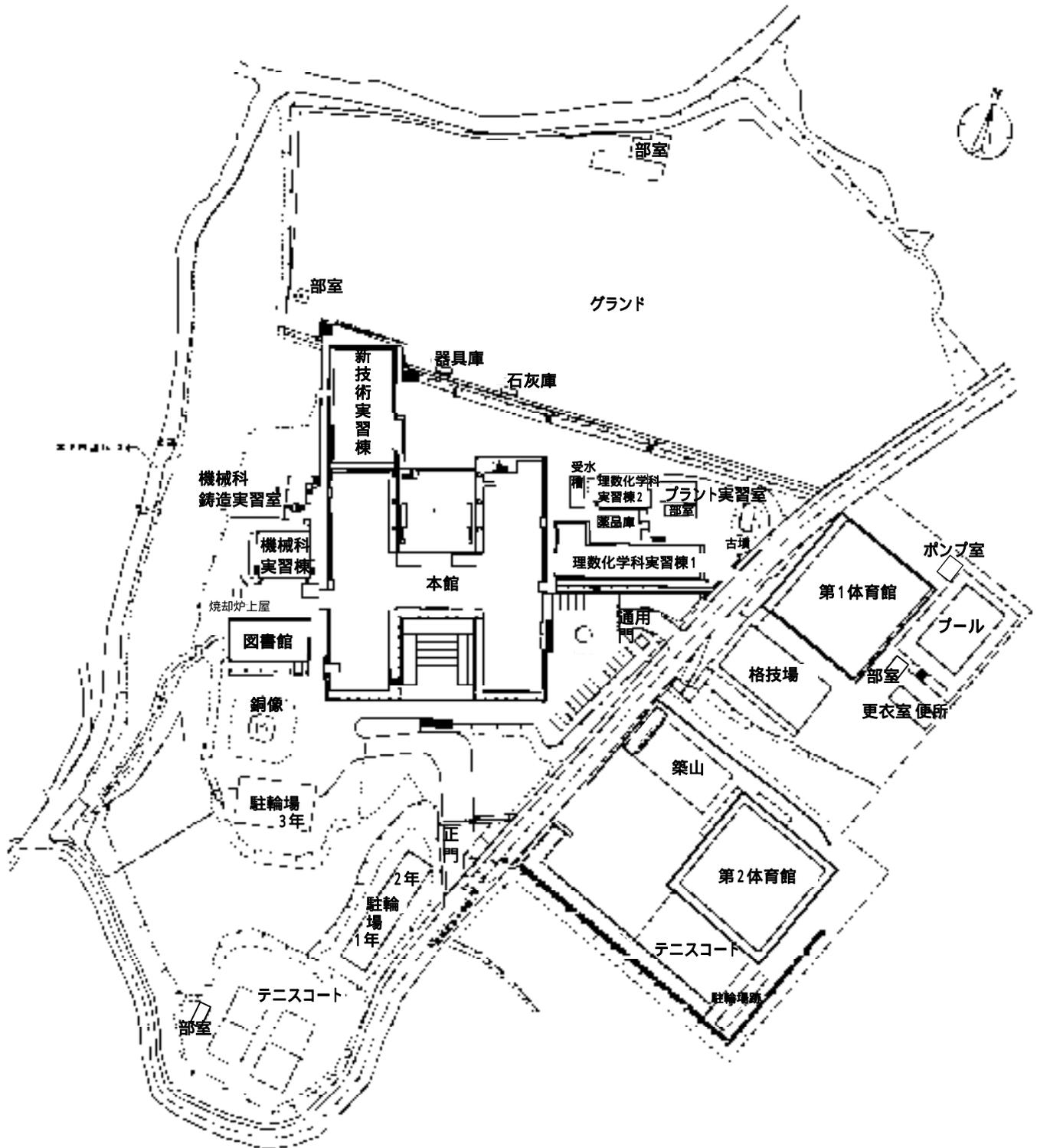
学校施設の概要

1 面積及び所有区分

(令和7年7月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	PTA有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	61,208.71	61,208.71					
内 訳	校舎敷地	27,896.94	27,896.94				
	運動場敷地	20,433.13	20,433.13				
	その他の敷地	12,878.64	12,878.64				
校 舎	建 5,570.36	5,570.36					
	延 15,279.04	15,279.04					
体 育 館	建 2,479.97	2,479.97					
	延 2,637.59	2,637.59					
武 道 場	建 607.79	607.79					
	延 508.33	508.33					
その他の建物	建 1,826.98	1,546.90			280.08		水泳部室 運動部室 野球部室及 び雨天投球 練習場
	延 2,560.62	2,280.54			280.08		
プ ー ル	400.00	400.00					

2 配置・規模等
 (1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	61,208.71m ²	15,279.04m ²	20,433.13m ²
県平均	45,574.48m ²	9,782.41m ²	22,506.84m ²

□□□□□

在 籍 生

学年	学科別 区分		工業科 (全科一括募集)				機械工学科				ロボット工学科			
			定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入学者		160	148	12	160								
		増加		0	0	0								
		減少		4	1	5								
	現在			144	11	155								
2年	入学者		160	135	9	144								
		増加		(1)	0	(1)								
		減少		6(1)	0	6(1)								
	2年時当初						40	33	1	34	40	28	3	31
		増加						0	0	0		0	0	0
		減少						0	0	0		1	0	1
	現在							33	1	34		27	3	30
3年	入学者		160	97	7	104								
		増加		0	0	0								
		減少		6(1)	0	6(1)								
	2年時当初						40	31	4	35	40	14	0	14
		増加						0	0	0		0	0	0
		減少						1	0	1		0	0	0
	3年時当初							30	4	34		14	0	14
		増加						0	0	0		0	0	0
		減少						0	0	0		0	0	0
現在							30	4	34		14	0	14	
合計			160	144	11	155	80	63	5	68	80	41	3	44

徒 調

(令和7年7月31日現在)

電気情報工学科				理数化学科								(合 計)			
定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計					定員	男子	女子	合計
												160	148	12	160
													0	0	0
													4	1	5
													144	11	155
												160	135	9	144
													(1)	0	(1)
													6(1)	0	6(1)
40	38	1	39	40	30	4	34						129	9	138
	0	0	0		0	0	0						0	0	0
	0	0	0		0	0	0						1	0	1
	38	1	39		30	4	34						128	9	137
												160	97	7	104
													0	0	0
													6(1)	0	6(1)
40	33	2	35	40	12	1	13						90	7	97
	0	0	0		0	0	0						0	0	0
	2	0	2		0	0	0						3	0	3
	31	2	33		12	1	13						87	7	94
	0	0	0		0	0	0						0	0	0
	0	0	0		0	0	0						0	0	0
	31	2	33		12	1	13						87	7	94
80	69	3	72	80	42	5	47					480	359	27	386

入学志願者及び入学者数調

全 日 制

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学 科 別		工業科	工業科	工業科	工業科	工業科
		(全科一括募集)	(全科一括募集)	(全科一括募集)	(全科一括募集)	(全科一括募集)
生徒定員(A)		200	200	160	160	160
募集者数(B)		200	200	160	160	160
志願者数	男	104(1)	125(2)	97(3)	132(5)	152
	女	13(0)	8	7(1)	9(0)	12
	計(C)	117(1)	133(2)	104(4)	141(5)	164
受検者数	男	104(1)	125(2)	97(3)	130(5)	148
	女	13(0)	8	7(1)	9(0)	12
	計(D)	117(1)	133(2)	104(4)	139(5)	160
合格者数	男	103(1)	125(2)	97(3)	130(5)	148
	女	13(0)	8	7(1)	9(0)	12
	計(E)	116(1)	133(2)	104(4)	139(5)	160
志願倍率 (C)/(B)		0.58	0.66	0.65	0.88	1.03
受検倍率 (D)/(B)		0.58	0.66	0.65	0.86	1.00
入学者数	男	103	125	97	135	148
	女	13	8	7	9	12
	計(F)	116	133	104	144	160
充足率(F)/(A)		0.58	0.67	0.65	0.90	1.00

卒業生の動向調

(高等学校用)

1 進路状況

学科別		機械科			電子機械科			電気電子科			システム化学科			数理工学科			(計)			
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
卒業生徒数		40	27	30	38	28	18	38	14	39	22	15	12	33	21	14	171	105	113	
内 訳	(進学志願者)	3	5	6	4	4	1	5	2	5	3	1	2	19	15	10	34	27	24	
	進 学 者	大学・短大	0	2	3	1	0	0	1	0	0	2	0	0	9	8	5	13	10	8
		専修・各種学校等	3	3	3	3	4	1	4	2	5	1	1	2	10	7	5	21	17	16
	小計	3	5	6	4	4	1	5	2	5	3	1	2	19	15	10	34	27	24	
	就職者	37	22	22	33	24	17	33	12	34	19	14	10	14	6	4	136	78	87	
	自営者	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
	進学準備者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		40	27	30	38	28	18	38	14	39	22	15	12	33	21	14	171	105	113	

2 求人状況

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
就職希望者数	127 人	78 人	86 人
求人数	903 人	956 人	1,015 人
求人倍率	7.1	12.3	11.8

3 資格取得状況

(令和6年度)

学 科 別		機械科	電子機械科	電気電子科	システム化学科	数理工学科	(計)
卒業生徒数		30	18	39	12	14	113
資 格 取 得 状 況	情報技術検定3級	1	2	7	0	9	19
	情報技術検定2級	0	0	8	0	0	8
	計算技術検定3級	24	13	37	12	9	95
	基礎製図検定	13	11	0	3	0	27
	機械製図検定	7	0	0	0	0	7
	初級CAD検定	4	6	0	0	0	10
	実用英語技能検定3級	0	0	1	1	2	4
	実用英語技能検定準2級	0	0	0	0	2	2
	実用英語技能検定2級	0	1	1	0	2	4
	工業英語能力検定3級	0	2	1	0	0	3
	実用数学技能検定3級	1	0	2	0	1	4
	実用数学技能検定準2級	0	1	2	0	3	6
	日本語ワープロ検定3級	0	2	3	1	1	7
	日本漢字能力検定3級	4	0	7	1	4	16
	日本漢字能力検定準2級	0	0	2	1	1	4
	危険物取扱者 乙種1類	0	0	1	1	1	3
	危険物取扱者 乙種3類	0	0	0	0	1	1
	危険物取扱者 乙種4類	2	0	5	3	1	11
	危険物取扱者 乙種5類	0	0	0	0	1	1
	危険物取扱者 乙種6類	1	0	1	0	0	2
技能士3級(機械加工・マシニングセンタ)	1	0	0	0	1	2	
技能士3級(化学分析)	0	0	0	1	0	1	
電気工事士第2種	0	1	16	0	0	17	
合 計		58	39	94	24	39	254

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1)出身地 (令和7年7月31日現在) (単位:人)

市町村名	富士市	富士宮市	沼津市	静岡市	その他	合計
生徒数	327	49	2	3	5	386
構成比%	84.7	12.7	0.5	0.8	1.3	100

(2)通学方法 (令和7年7月31日現在) (単位:人)

区分	自転車	徒歩	電車	バス	保護者車	合計
生徒数	329	26	3	6	22	386
構成比%	85.2	6.7	0.8	1.6	5.7	100

2 部(クラブ)の加入状況

(令和7年7月31日現在) (単位:人)

区分	運動部	文化部	未加入者	計	
部(クラブ)数	12	8		20	
男子	1年	81	63	0	144
	2年	61	50	17	128
	3年	34	44	9	87
	計(A)	176	157	26	359
	構成比%	49.0	43.7	7.3	100
女子	1年	5	6	0	11
	2年	5	3	1	9
	3年	1	5	1	7
	計(B)	11	14	2	27
	構成比%	40.7	51.9	7.4	100
合計	(A+B)	187	171	28	386
	構成比%	48.4	44.3	7.3	100

授 業 料 収

期別	月別	調 定 の 状 況							
		1 年		2 年		3 年		計	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額
一期	7	人 19	円 564,300	人 13	円 386,100	人 9	円 267,300	人 41	円 1,217,700
	8								
	計	19	564,300	13	386,100	9	267,300	41	1,217,700
二期	10	19	940,500	12	594,000	13	643,500	44	2,178,000
	11								
	12								
	計	19	940,500	12	594,000	13	643,500	44	2,178,000
三期	1	19	752,400	12	475,200	13	514,800	44	1,742,400
	2								
	計	19	752,400	12	475,200	13	514,800	44	1,742,400
合計		57	2,257,200	37	1,455,300	35	1,425,600	129	5,138,100

納 状 況 調

(令和6年度)

収納の状況				異動者等の状況
納期内収納額		納期後 収納額	収 入 未 済 額	
円	%			
1,128,600	92.7	0	89,100	A . 期首収納権利発生額 = 1,217,700円 (1年19人 + 2年13人 + 3年9人) × 9,900円 × 3月 B . 収納権利増減 () 額 = 0円 C . 収納必要額 A (±) B = 1,217,700円
		89,100	0	
1,128,600	92.7	89,100	0	
1,980,000	90.9		198,000	A . 期首収納権利発生額 = 2,178,000円 (1年19人 + 2年12人 + 3年13人) × 9,900円 × 5月 B . 収納権利増減 () 額 = 0円 C . 収納必要額 A (±) B = 2,178,000円
		148,500	49,500	
		49,500	0	
1,980,000	90.9	198,000	0	
1,663,200	95.5		79,200	A . 期首収納権利発生額 = 1,742,400円 (1年19人 + 2年12人 + 3年13人) × 9,900円 × 4月 B . 収納権利増減 () 額 = 0円 C . 収納必要額 A (±) B = 1,742,400円
		79,200	0	
1,663,200	95.5	79,200	0	
4,771,800	92.9	366,300	0	D . 収納必要額 = 5,138,100円

授 業 料 収

期別	月別	調 定 の 状 況							
		1 年		2 年		3 年		計	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額
一期	6	人 1	円 29,700	人	円	人	円	人 1	円 29,700
	7								
	計	1	29,700					1	29,700
二期									
	計								
三期									
	計								
合計		1 29,700					1 29,700		

納 状 況 調

(令和7年度)
(令和7年7月31日現在)

収納の状況				異動者等の状況
納期内収納額	収納率	納期後 収納額	収 入 未 済 額	
円				
29,700	100.0	0	0	A . 期首収納権利発生額 = 29,700円 1年1人×9,900円×3月 B . 収納権利増減()額 = 0円 C . 収納必要額 A (±) B = 29,700円
29,700		0	0	
29,700	100.0	0	0	D . 収納必要額 = 29,700円

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和 6 年度	令和 7 年度 (令和 7 年 7 月 31 日 現在)
	件 数	件 数
高等学校入学検定料	165件	0 件

預 金 調

(令和7年7月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘 要
スルガ銀行富士吉原支店	無利息型普通預金	241417	静岡県立吉原工業高等学校資金前渡者 増田 陽一	0	給料
スルガ銀行富士吉原支店	無利息型普通預金	434639	(自振口)吉原工業高等学校資金前渡者 吉原工業高等学校長 増田 陽一	0	自振口座 電気、電話料等
残 高 合 計				0	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、5年度からの繰越額分
(12)	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		3,561,426	0
委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		700,700	0
計					3,683,856	4,262,126	0
(14)	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		1,210,000	0
工事請負費							
計					5,258,000	1,210,000	0
(16)							
公有財産購入費							
計					0	0	0
(17)	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		990,000	0
備品購入費							
計					574,750	990,000	0
(18)	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費		36,892,400	0
負担金、補助及び交付金							
計					35,775,700	36,892,400	0
(21)							
補償、補填及び賠償金							
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年7月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12)	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	435,600	0
委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	161,700	0
計					597,300	0
(14)	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費	3,146,000	0
工事請負費						
計					3,146,000	0
(16)						
公有財産購入費						
計					0	0
(17)	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	65,934	0
備品購入費						
計					65,934	0
(18)	一般	教育費	高等学校費	高等学校管理費	10,223,900	0
負担金、補助及び交付金						
計					10,223,900	0
(21)						
補償、補填及び賠償金						
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
1	(事務関係) 自家用電気 工作物保安 管理業務	加藤電気管 理事務所	円 2,572,680	円 2,572,680	円	円 2,572,680	一般	6.4.1 ? 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.30 小計	円 178,860 178,860 178,860 199,100 357,500 199,100 199,100 199,100 284,900 199,100 199,100 199,100 2,572,680	電気事業法 に基づく業 務	吉原工業高校 吉原高校 吉原工業高校 富士高校 富士東高校 (富士特別支援学校富士 東分校) 富士特別支 援学校 富士特別支援学校富士 西分校
2	建築物環境 衛生管理業務	株式会社 カンザイ	1,552,540	1,314,500		1,314,500	一般	6.4.1 ? 7.3.31	6.10.31 7.4.30 小計	782,100 532,400 1,314,500	建築物にお ける衛生的 環境の確保 に関する法 律第4条に 基づく業務	
3	産業廃棄物 収集運搬処分 業務	株式会社 クリーンコ ントロール サービス	90,200	90,200		90,200	随契	6.7.1 ? 6.12.27	6.10.17	90,200	産業廃棄物 (混合廃棄 物)収集運 搬及び処分 業務	随契1号 (少額)
4	産業廃棄物 収集運搬処分 業務	株式会社 クリーンコ ントロール サービス	44,000	44,000		44,000	随契	6.8.29 ? 6.9.30	6.10.17	44,000	産業廃棄物 (廃プラ)収 集運搬及び 処分業務	随契1号 (少額)
5	産業廃棄物 収集運搬処分 業務	株式会社 ホクセイ	46,981	46,981		46,981	随契	6.12.19 ? 7.3.28	7.2.7	46,981	産業廃棄物 (廃蛍光管 等)収集運 搬及び処分 業務	随契1号 (少額)
6	中和槽清掃 及び産業廃 棄物収集運 搬業務	三友水処理 株式会社	99,000	90,860		90,860	随契	6.11.1 ? 7.3.28	7.2.18	90,860	中和槽の清 掃及び産業 廃棄物(汚 泥)収集運 搬業務	随契1号 (少額)
7	中和槽汚泥 処分業務	クリーン サービス 株式会社	22,000	14,575		14,575	随契	6.11.1 ? 7.3.28	7.2.28	14,575	産業廃棄物 (汚泥)処 分業務	随契1号 (少額)
8	産業廃棄物 収集運搬処分 業務	株式会社 クリーンコ ントロール サービス	47,080	47,080		47,080	随契	7.3.13 ? 7.3.31	7.4.17	47,080	産業廃棄物 (廃プラス チック(タ イヤ)収 集運搬及び 処分業務	随契1号 (少額)
9	産業廃棄物 収集運搬処分 業務	株式会社 クリーンコ ントロール サービス	41,250	41,250		41,250	随契	7.3.17 ? 7.3.31	7.4.17	41,250	産業廃棄物 (廃プラ)収 集運搬及び 処分業務	随契1号 (少額)
	事務関係 計	9 件								4,262,126		
	(工事関係)											
	工事関係 計	0 件								0		
	合 計	9件								4,262,126		

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契約 期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
参考 1	警備業務	セコム 株式会社	/	5,808,000		5,808,000	/	1.10.1 ~ 6.9.30	/	/	警報機器の 整備、監視 等業務	富士高校 R1長期
		セコム 株式会社	/	17,424,000		17,424,000	/	6.10.1 ~ 11.9.30	/	/	警報機器の 整備、監視 等業務	富士高校 R6長期
参考 2	消防用設備 等保守点検 業務	サンコー防 災株式会社	/	13,376,000	4,400	13,380,400	/	6.4.1 ~ 7.3.31	/	/	消防用設備 の保守点検 業務	富士宮東高校
参考 3	可燃物収集 運搬処分業務	有限会社東 亜美装	/	運搬料1回 21,258 処分料1kg 15		運搬料1回 21,258 処分料1kg 15	/	6.4.5 ~ 7.3.28	/	/	可燃物の収 集運搬処分 業務	吉原高校 単価契約
参考 4	プール浄化 装置保守点 検業務	有限会社石 川メンテナ ンス	/	207,900		207,900	/	6.4.12 ~ 6.10.31	/	/	プール浄化 装置維持管 理業務	富士東高校
参考 5	定期点検業 務	株式会社平 柳建築設計 事務所	/	3,263,700		3,263,700	/	6.8.15 ~ 7.2.28	/	/	建築基準法 第12条に基 づく点検	富士東高校
	計	5件										

委託料に関する調

(令和7年度)
(令和7年7月31日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 自家用電気 工作物保安 管理業務	加藤電気管 理事務所	円 2,633,400	円 2,633,400	円	円 2,633,400	一般	7.4.1 ゝ 8.3.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31	円 199,100 199,100 199,100	電気事業法 に基づく業 務	吉原高校 吉原工業高校 富士高校 富士東高校 (富士特別支援学校富 士東分校舎) 富士特別支 援学校 富士特別支援学校富士 東分校
2	建築物環境 衛生管理業務	株式会社 カンザイ	1,552,540	1,314,500		1,314,500	一般	7.4.1 ゝ 8.3.31			建築物にお ける衛生的 環境の確保 に関する法 律第4条に 基づく業務	
	事務関係 計	件 2							小計	597,300		
	(工事関係)											
	工事関係 計	件 0								0		
	合計	2件								597,300		
参考 1	警備業務	セコム 株式会社		17,424,000		17,424,000		6.10.1 ゝ 11.9.30			警備機器の 整備、監視 等業務	富士高校 R6長期
参考 2	消防用設備 等保守点検 業務	サンコー防 災株式会社		13,246,200	386,100	13,632,300		7.4.1 ゝ 8.3.31			消防用設備 の保守点検 業務	富士宮東高校
参考 3	可燃物収集 運搬処分業務	株式会社静 岡総合処理 センター		運搬料1回 21,252 処分料1kg 15		運搬料1回 21,252 処分料1kg 15		7.4.8 ゝ 8.3.31			可燃物の収 集運搬処分 業務	吉原高校 単価契約
参考 4	プール浄化 装置保守点 検業務	有限会社石 川メンテナ ンス		227,700		227,700		7.4.15 ゝ 7.10.31			プール浄化 装置維持管 理業務	富士東高校
	計	4件										

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国工業高等学校校長協会総会・研究協議会参加費	公益財団法人 全国工業高等学校長協会	令163条2号 補助金、負担金、交付金及び委託費	参加費	円 5,000	6.4.26
2	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第1期 319名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	9,464,400	6.7.31
3	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第2期 312名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	15,335,100	6.10.31
4	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	9,900	6.11.29
5	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第3期 307名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	12,127,500	7.1.31
6	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	19,800	7.2.28
7	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (1名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	9,900	7.2.28
計		7件	/	/	36,892,400	/

負担金支出調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国工業高等学校校長協会総会・研究協議会参加費	公益財団法人 全国工業高等学校長協会	令163条2号 補助金、負担金、交付金及び委託費	参加費	円 5,000	7.4.25
2	全国高等学校長協会総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	令163条2号 補助金、負担金、交付金及び委託費	参加費	4,000	7.4.30
3	甲種防火管理 新規講習受講料	一般財団法人 日本防火・防災協会	令163条2号 補助金、負担金、交付金及び委託費	講習受講料	8,000	7.7.18
4	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第1期 344名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	10,206,900	7.7.31
計		4件	/	/	10,223,900	/

余 白

建 築 工

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契約金額		
					当初額	変更増減額	計
1	教育管理費	令和 6 年度静岡県立吉原工業高等学校体育館高压受変電設備他修繕工事	富士市比奈地内	円 1,529,000	円 1,210,000	円 0	円 1,210,000
		合計	1 件	1,529,000	1,210,000	0	1,210,000

整理 番号	予算科目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契約金額		
					当初額	変更増減額	計
1	教育管理費	令和 7 年度静岡県立吉原工業高等学校情報技術実習室空調更新工事	富士市比奈地内	円 7,865,000	円 7,865,000	円 0	円 7,865,000
		合計	1 件	7,865,000	7,865,000	0	7,865,000

事 調

(令和6年度)

契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
随契	三和電気工事株式会社	令和6年8月7日 令和7年3月28日	1,210,000 ^円	体育館の既設キュービクル内の電灯トランスを更新。システム化学科実習棟2階電灯盤の改修。	-	令達年月日 令和6年7月24日 最終支払年月日 令和7年4月8日
			1,210,000			

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
指名	協栄空調株式会社	令和7年6月20日 令和7年11月28日	0 ^円	本館2階情報技術実習室の空調設備更新	-	令達年月日 令和7年5月16日
			0			

公 有 財 産 調

(令和 6 年度)

区分	6年3月31日現在		増		減		7年3月31日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産	/	千円 3,626,414	/	千円 0	/	千円 83,109	/	千円 3,543,305	
土地	m ² 61,208.71	2,299,699					m ² 61,208.71	2,299,699	
立木竹	本 182	2,947					本 182	2,947	
建物	m ² <u>10,205.02</u> 20,705.50	1,296,939				80,773	m ² <u>10,205.02</u> 20,705.50	1,216,166	
工作物	個 78	26,829	1			2,336	個 79	24,493	
公有財産に準ずるもの	/	118	/		/		/	118	
電話加入権	件 4	118					件 4	118	

令和 7 年度中増減なし

借地借家等調

(令和7年7月31日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	借料		契約期間	所有者又は契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	建物	事務所建	富士市比奈 2300	コンクリート ブロック造	陸屋根 1階建	m ² 24.27	円	無償	R7.4.1~ R9.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	水泳部室
2	建物	事務所建	富士市比奈 2300	鉄筋コンク リート造	陸屋根 平屋建	51.06		無償	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	運動部室
3	建物	倉庫建	富士市比奈 2300	軽量鉄骨造	板葺 1階建	204.75		無償	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	野球部室及 び雨天投球 練習場
建物計						280.08		0			
4	工作物	雑工作物	富士市比奈 2300			式 1	円	無償	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	諸旗掲揚 台・屋外放 送設備
5	工作物	雑工作物	富士市比奈 2300			1		無償	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	バックネッ ト
6	工作物	雑工作物	富士市比奈 2300			1		無償	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	諸旗掲揚台
7	工作物	雑工作物	富士市比奈 2300			1		無償	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	ソフトテニ スコート防 球ネット・ 夜間照明
8	工作物	雑工作物	富士市比奈 2300			1		無償	R7.4.1~ R8.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	ピオトープ 用看板
9	工作物	雑工作物	富士市比奈 2300			1		無償	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	スコアボー ド
10	工作物	雑工作物	富士市比奈 2300			1		無償	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	シュート板
11	工作物	雑工作物	富士市比奈 2300			1		無償	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	カーブミ ラー
12	工作物	雑工作物	富士市比奈 2300			1		無償	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	石碑(努 力)
13	工作物	雑工作物	富士市比奈 2300			1		無償	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高 等学校PTA会長	校歌碑
14	工作物	冷暖房装置	富士市比奈 2300			個 1		5,214,953	R3.7.1~ R16.6.30	三井住友ファイナ ンス&リース株式会 社	普通教室空 調
15	工作物	冷暖房装置	富士市比奈 2300			1		4,369,566	R6.7.1~ R19.6.30	NTT・TCリース株式会 社 静岡支店	特別教室空 調
工作物計						10 2		9,584,519			

事務機器等の債務負担行為

区 分	事業名又は契約名	内 容	契 約 額	3 年 度
				円
長期継続契約	印刷機賃貸借	印刷機借上げ (契約日) R3.4.1	3,300,000 円	660,000 円

又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

(契約額の年度別内訳)			
4年度	5年度	6年度	7年度
円 660,000	円 660,000	円 660,000	円 660,000

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年7月31日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	6本 8条	1,500	21,000	R7.4.1~ R12.3.31	東京電力パワーグリッド(株)富士支社長	電柱5本、支線8条、支線柱1本
2	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	64.00 m ²		免除	R7.4.1~ R8.3.31	富士市長	学校創立者銅像敷地
3	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	204.75 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	野球部部室、雨天練習場敷地
4	建物	事務所建	富士市比奈2300	鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根 5階建	鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根 5階建	0.01 m ²		免除	R4.4.1~ R9.3.31	富士市長	防災用無線
5	建物	事務所建	富士市比奈2300	鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根 5階建	鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根 5階建	10.00 m ²		免除	R6.4.1~ R9.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	売店
6	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	103.75 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	バックネット敷地
7	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	8.00 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	諸旗掲揚台、屋外放送設備敷地
8	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	1本 4条	1,500	7,500	R7.4.1~ R12.3.31	西日本電信電話(株)静岡支店長	電柱1本 支線4条
9	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	1.00 m ²		660	R7.4.1~ R10.3.31	西日本電信電話(株)静岡支店長	公衆電話ボックス敷地
10	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	4.65 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校同窓会長	記念碑敷地
11	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	4.84 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	諸旗掲揚台敷地
12	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	51.06 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	運動部部室敷地
13	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	0.60 m ²		免除	R7.4.1~ R8.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	ビオトープ用看板敷地
14	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	8.09 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	スコアボード敷地
15	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	0.08 m ²		免除	R7.4.1~ R8.3.31	富士市長	健康づくり一万歩案内看板敷地
16	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	0.33 m ²		免除	R7.4.1~ R8.3.31	富士市長	大坂上古墳案内看板敷地
17	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	8.00 m ²		604,000	R6.4.1~ R9.3.31	ダイードリンク(株)東海営業部長	自動販売機
18	建物	事務所建	富士市比奈2300	鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根 5階建	鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根 5階建	4.00 m ²		785,400	R6.4.1~ R9.3.31	ダイードリンク(株)東海営業部長	自動販売機
19	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	73.46 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	ソフトテニスコート防球ネット及び夜間照明敷地
	工作物	囲障	富士市比奈2300	-	-	4.53 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	
20	工作物	照明装置	富士市比奈2300	-	-	0.13 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	カーブミラー

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年7月31日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
21	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	2.50 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	校歌碑敷地
22	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	0.16 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	石碑敷地
23	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	5.25 m ²		免除	R7.4.1~ R12.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	シユート板敷地
24	建物	事務所建	富士市比奈2300	鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根5階建		3.30 m ²		免除	R5.4.1~ R8.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	PTA雇用職員の執務場所
25	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	9.75 m ²		免除	R5.4.1~ R8.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	PTA雇用職員の駐車場
26	建物	事務所建	富士市比奈2300	鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根5階建		1.00 m ²		6,940	R7.4.1~ R10.3.31	静岡県立吉原工業高等学校後援会会長	自動販売機
27	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	24.27 m ²		免除	R7.4.1~ R9.3.31	静岡県立吉原工業高等学校PTA会長	水泳部部室敷地
28	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	0.09 m ²		免除	R3.4.1~ R8.3.31	富士市長	消防水利標識敷地
29	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	3.92 m ² 29.00 m		3,510	R7.4.1~ R8.3.31	国土交通省 国土地理院長	地震予知観測システム敷地
30	土地	学校敷地	富士市比奈2300	学校敷地	学校敷地	0.27 m ²		免除	R7.4.1~ R8.3.31	富士市長	洪水時車いっとき避難場所案内看板敷地
31	建物	事務所建	富士市比奈2300	鉄骨鉄筋コンクリート造 陸屋根5階建		0.84 m ²		5,830	R7.4.1~ R10.3.31	松本印刷株式会社	デジタルサイネー設置
	合計							1,434,840			

主要備品調

(令和7年7月31日現在)

整理 番号	区分		品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
	大・中	小				
1	06-07	製紙用機器	抄紙機 短網ヤンキー式	理数化学科実習 70時間	平成3年3月	円 25,492,500
2	06-02	金属加工工作機器	ターニングセンター ハイセル23 他	機械工学科他実習 120時間	平成10年1月	20,600,000
3	03-02	顕微鏡	顕微鏡 分析走査電子顕微鏡	理数化学科他実習 120時間	平成23年10月	19,950,000
4	06-02	金属加工工作機器	旋盤 LR-55A 10台	機械工学科他実習 360時間	平成11年3月	19,845,000
5	05-01	力学エネルギー機器	水力実験装置 機械研究 WD33F パソコン外	機械工学科実習 240時間	平成11年3月	19,162,500
6	06-99	その他の諸機器	セラミック製造装置	理数化学科実習 75時間	平成6年1月	17,999,971
7	05-01	引張機器	材料万能試験機 島津 AG-50KNG-M1	理数化学科実習 75時間	平成8年3月	17,510,000
8	05-01	強度試験・計測機器	万能材料試験実習装置	機械工学科他実習 240時間	令和4年2月	15,840,000
9	05-04	その他の元素分析機器	ICP発光分析装置 Optima 3100RL外	実習・課題研究 120時間	平成12年3月	14,922,600
10	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	電子計算組織(自動設計 製図装置)	機械工学科他実習 360時間	平成27年2月	14,893,200
11	06-04	その他の電気電子機器	その他の電気電子機器 制御実習装置(センサー実習装置)	ロボット工学科実習 120時間	令和2年3月	14,729,000
12	05-07	その他の測量機器	三次元測定機	機械工学科実習 120時間	平成6年3月	14,294,486
13	05-03	電気試験計測機器	太陽光発電システム 太陽電池パネル、計測機器外	電気情報工学科実習 60時間	平成11年3月	13,940,000
14	06-99	その他の諸機器	紙力材料試験設備	理数化学科実習 150時間	令和4年2月	13,420,000
15	06-02	金属加工工作機器	金属加工工作機器 VK45NT50	機械工学科他実習 360時間	昭和63年3月	13,380,000
16	05-01	力学エネルギー機器	内燃機関実習装置 東京メータGWE-30/150	機械工学科実習 240時間	平成8年3月	13,000,000
17	06-06	ボイラー	蒸気原動機実習装置 大全 大気放出式 K型	機械工学科実習 240時間	平成8年3月	12,927,000
18	06-02	金属加工工作機器	歯切盤 ワイヤー放電加工機 A300W	機械工学科実習 240時間	平成5年3月	12,499,050
19	06-02	金属加工工作機器	マシニングセンター(一式)	機械工学科他実習 360時間	平成26年3月	11,718,000
20	06-99	その他の諸機器	ロボット学習システム	ロボット工学科実習 240時間	令和3年10月	11,000,000

職 員 調

(令和7年7月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	校長	増田 陽一	総括		年 月	
2	副校長	樋口 一成	総括補助		年 月	
3	教頭	石川 好宏	総括補助		年 月	
4	事務長	土屋 晴子	事務総括		年 月	
5	教諭	宇佐美 徹	(電気情報工学)		年 月	
6	教諭	伊藤 正美	(機械工学)		年 月	
7	教諭	望月 香里	国語		年 月	
8	教諭	松原 伸行	(ロボット工学)		年 月	
9	教諭	寺下 義貴	(理数化学)		年 月	
10	教諭	沓間 雅之	(電気情報工学)		年 月	
11	教諭	萬崎 清次	(ロボット工学)		年 月	
12	教諭	渡邊 克好	(電気情報工学)		年 月	
13	教諭	林 はるみ	家庭		年 月	
14	教諭	渡邊 公秀	(理数化学)		年 月	
15	教諭	小林 建紀	理科		年 月	
16	教諭	長坂 智博	英語		年 月	
17	教諭	古谷 祥江	英語		年 月	
18	教諭	河野 晋	保健体育		年 月	
19	教諭	篠原 正樹	保健体育		年 月	
20	教諭	古木 秀和	社会		年 月	
21	教諭	眞田 志保	(ロボット工学)		年 月	
22	教諭	植松 和也	数学		年 月	
23	教諭	後藤 巧	(ロボット工学)		年 月	
24	教諭	八木 勇誌	(理数化学)		年 月	
25	教諭	大石 涼子	国語		年 月	
26	教諭	塩見 拓之	数学		年 月	
27	教諭	土屋 佑太	(理数化学)		年 月	
28	教諭	大木 裕文	理科		年 月	
29	教諭	吉田 彩奈	(電気情報工学)		年 月	
30	教諭	牧野 良亮	国語		年 月	
31	教諭	小桐 真莉乃	(電気情報工学)		年 月	
32	教諭	坂田 達哉	数学		年 月	
33	教諭	河合 貴之	保健体育		年 月	
34	教諭	川崎 祐一郎	(機械工学)		年 月	
35	教諭	戸塚 康介	(機械工学)		年 月	
36	教諭	前川 佳穂	英語		年 月	
37	教諭	安彦 宗哲	(機械工学)		年 月	
38	教諭	磯部 功太	社会		年 月	
39	教諭	勝又 大介	数学		年 月	
40	教諭	成島 すみれ	理科		年 月	

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
41	教諭	野口 啓介	保健体育		年 月	
42	教諭	堀池 学	(機械工学)		年 月	
43	教諭	大木 昇	(理数化学)		年 月	
44	教諭	山内 豊	(ロボット工学)		年 月	
45	教諭	齋藤 彰宏	(電気情報工学)		年 月	
46	教諭	勝又 謙	(ロボット工学)		年 月	
47	主任実習助手	仁藤 博文	(電気情報工学)		年 月	
48	実習助手	坪内 和輝	(機械工学)		年 月	
49	実習助手	松島 江佑	(ロボット工学)		年 月	
50	養護教諭	高橋 浩子	養護		年 月	
51	養護教諭	渡邊 利佳	養護		年 月	
52	主査	石井 ちずる	施設・管財		年 月	
53	主任	渡邊 詩日	給与		年 月	
54	主事	藤原 あかね	会計		年 月	
55	主任技能員	西村 浩幸	用務		年 月	
平均年数					年 月	

整理	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(任)	遠藤 克則	(理数化学)		年 月	
2	教諭(臨)	増田 里久和	英語		年 月	
3	特別教諭	森 健治	(機械工学)		年 月	
4	非常勤講師	芹澤 智恵子	数学		年 月	
5	非常勤講師	増井 光子	家庭		年 月	
6	非常勤講師	望月 世紀子	音楽		年 月	
7	非常勤講師	深澤 友紀	美術		年 月	
8	非常勤講師	荒川 竜士	保健体育		年 月	
9	非常勤講師	内村 杏輔	保健体育		年 月	
10	非常勤講師	稲葉 均	(機械工学)		年 月	
11	非常勤講師	稲葉 将光	(機械工学)		年 月	
12	非常勤講師	小池 幸彦	(ロボット工学)		年 月	
13	非常勤講師	馬渡 務	(ロボット工学)		年 月	
14	非常勤講師	小澤 健一	(電気情報工学)		年 月	
15	非常勤講師	橋本 公夫	(理数化学)		年 月	
16	非常勤労務職員	高井 壽			年 月	
17	非常勤労務職員	佐藤 くみ子			年 月	
18	非常勤嘱託員	和泉 美穂			年 月	
19	部活動指導員	河合 輝	剣道		年 月	
20	学校医	土屋 厚子	内科		年 月	
21	学校医	加藤 昌久	眼科		年 月	
22	学校医	里和 一仁	耳鼻科		年 月	
23	学校医	秋元 隆宏	歯科		年 月	
24	学校薬剤師	中野 祥子			年 月	

職員の年齢調

（令和7年7月31日現在）

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	人	
20歳以上30歳未満	5	
30歳以上40歳未満	14	
40歳以上50歳未満	12	
50歳以上56歳未満	7	
56歳以上61歳未満	11	
61歳以上	6	暫定再任用職員6人
計	55	平均年齢 46.5歳

健康管理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 59人
	職員数 60人
受 診 率	98.3%
県平均受診率	98.3%

(1) 未受診の理由
育児休業 1人

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行っていが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人
C 2		要経過観察	人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	16(16)人
D 2		要経過観察	18(18)人
D 3		医 療 不 要	19(19)人
区 分 者 計			53(53)人
未区分者数			2人
合 計			55(53)人

(1) 管理区分 A ~ C 2 該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由
ア 産休・育休 1人
イ 新規採用 1人
ウ 自己都合による未受診 人
エ その他 人
() 人